

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録
(第 2 号)

1 平成3年12月16日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 28名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稲 陞
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
23 番 石井 昌治	24 番 石井 輝久
25 番 流山源次郎	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総 務 部 長 二通 英雄	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 脇田 元始	建 設 部 長 伊東 衛
水 道 課 長 鈴木 信一	教 育 委 員 会 長 福原 修

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 土橋 康彦
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 加藤 浩一	

1 議事日程（第2号）

平成3年12月16日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時03分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数28名、これより第4回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の12月11日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

1番議員秋山光章君。御登壇願います。

（1番議員秋山光章君登壇）

◎1番（秋山光章君） 私は質問に先立ちまして、まず庄司市長にお祝いの言葉を申し上げたいと存ずるものでございます。

去る12月9日、この日は前市長の故半澤良一氏の祥月命日に当たるのでありますが、翌10日が庄司市長の就任1周年を迎えた日であります。故人半澤氏に対しましては、謹んで哀悼の意を表するとともに、庄司市長にこの日を迎えるに当たって、さぞかし感新たなる思いに浸られたことと拝察しながら、ここに改めて祝意を表するものであります。

さて、私は今次定例会に提案されました議案11件の審議に先立ち、当面する館山市政の中で最も重要と思われる諸問題のうち、以下7点に絞って質問いたします。どうか庄司市長には率直、簡明なる御答弁を賜りますようお願いして、以下順次質問に入ります。

質問の第1点は、目下編成作業を進めておられる平成4年度館山市一般会計歳入歳出予算案の編成方針についてであります。当年度、すなわち目下執行中の平成3年度予算、現計で130億7,888万6,000円は前の半澤市政の延長線上の予算と申しても過言ではありません。ただいま編成中の来年度予算こそ庄司市政そのものを如実に物語る内容であろうと言わなければなりません。そこで、ずばり伺います。来年度予算が物語る庄司市政の目玉はこれだということをお示しいただきたい。

次に、おおよその予算規模はどれくらいになろうかお示しいただきたい。と申しますのは、ただいま国におきましても税収不足等の理由から地方交付税交付金を減額しようと検討されており、そうなりますと当然のこととして当市も波及を免がれません。そんなことから、予算規模をどの程度にしようとするのか。もちろん概算で結構ですから、お示しいただきたいのであります。

さらにもう一点、歳入面で厳しさを加えるであろうと予測されますが、これに対応するにいかなる方針を持って編成作業に臨まれるか、御所見をお伺いして第2の質問に移ります。

富士ディーゼル跡地の処理の方針について質問をいたします。既に新聞報道により、大方の市民は承知しているところでありましょうし、市長の提案理由の説明の中で触れておられましたが、改めて市民に対して富士ディーゼルの跡地の全体面積は幾らか、これに対する買収面積を簡明にお示しいただきたい。

その目的とは、これから建設しようとしている館山市公共下水道事業計画の中の流末処理場に充てようとするもこれはわかっております。しからば、残余の富士ディーゼルの跡地についてどうするかは触れておりません。御承知のように、当議会の意向としては何らかの方法を講じて市当局乃至は開発

公社あるいは国、県等の公共機関が取得すべきであろうということであり
ます。市民の意向もまた同様であるように承知しているのであります。この点
につきまして、市長の率直なる御意見をお示しいただきたい。

質問の第3点でございますが、大規模なホテルを誘致して館山市の活性化
を図る以外に館山の発展の方途を見出せないのではないかということについ
て御質問をいたします。これは次の問題と不可分、つまり一体となっている
のでありますが、事は海水面の利用という特殊な問題、ここに我らの大先輩
であります庄司二三男議員がおられますが、館山船形漁業協同組合長という
要職にあられ、漁業権を預かっておられるという点を考慮いたしまして、あ
えて質問を分離したことをあらかじめ申し添えておくものであります。

さて、文化ホールの誘致は大いに結構です。ぜひ実現しなければなりませ
ん。では宿泊施設はどうか。観光を叫んできた館山市であります。それも四
季型の観光と口では叫びます。では、宿泊施設はどうなんでしょうか。デラ
ックス化した結婚式、最近では鴨川、あるいは千葉、そして東京、都会のホ
テルでの結婚式がたくさんあるという事例は皆様御承知のとおりであります。
全国規模の集会、市長さんは前身が学校の校長先生であります。いかがでし
ょうか。教職員の全国の研修会をこの館山で開催することができますでし
ょうか。近代的な大規模ホテルの誘致は焦眉の急であると考えてるのであります。
その用地はもとの館山市立第一中学校、今の市民運動場はどうか、御見解を
承りたいのであります。

しかし、恐らくは大手ホテル業者は館山市に誘致しようとしても応じては
くれますまいと私は思っている一人であります。そこで、先ほども申し上げ
ました第4の質問との関連になるのであります。あの市民運動場を思い浮か
べてください。ここにおられる先輩庄司議員と漁業権の問題等を含めまして
篤と協議を重ね、館山市活性化のための唯一の手法として、ヨットハーバー
の建設に同意してもらう。館山湾乃至鏡ヶ浦のあの夕日が沈んでいく落日の、
夕方の景観のすばらしさは白浜でも鴨川でも決して見られません。霊峰富士
山も指呼の間にあるではありませんか。ヨットハーバーとしての立地条件は
最適の太鼓判が押されていると聞いています。市長の御見解をお聞かせくだ

さい。

第5の質問も館山市の活性化のため、第3、第4点と密着不可分の関係にあります。すなわち館山と東京の竹芝桟橋の間に高速艇を就航させるということでもあります。要すればこれも漁協との協議が肝要でありましょうが、発着の場所としてヨットハーバーと連結させるという構想について質問をいたします。

今や御承知のとおり陸の交通機関としてJRがあります。お考えいただければ一目瞭然、複線化などは夢のまた夢の幻に過ぎないといっても言い過ぎではないのでしょうか。では、館山―木更津間にトンネルが幾つあるのでしょうか。今のJR東日本の経営体質、経営状態で果たしてこのトンネル拡張工事が可能でありましょうか。まず、不可能といっても過言ではないのでしょうか。では、国道127号線乃至は近く完成をする予定であります410号線、そして東関東自動車道高規格道路の延伸、どれ一つ見ても平成7年の東京湾横断道路の完成時を目標に鋭意工事が進められているものの、最近では到底間に合わないという見解で一致しているではありませんか。いずれにしても、陸路の交通機関に望みを託すことは許されません。

そこで、眼を転じていただきまして、海上に向けなければなりません。これもまた館山市の活性化のためには不可欠の要件として、焦眉の急と言わなければなりません。鋸南町、勝山にこの高速艇就航の計画が具体化しつつあるのであります。後手後手に回る館山の汚名を返上する意味からも、トンネルの掘削も不要のこの航路の開発の具体化に対する率直なる市長の御所見をお聞かせいただきたいのであります。

第6の質問は館山市の農業振興のための技術指導者に社団法人シルバー人材センターを新設してはどうかということについてであります。今の農業指導は大きく言えば県の暖地園芸試験場、県の農業改良普及事務所、館山市農業協同組合があることは言をまちません。ところが、営農指導や経営指導にしても、技術者が不足していて生産農家は期待をしていないというのが実情であります。ここに資料も用意してありますが、期待していないという計数的根拠は時間の関係で省略をいたします。要は退職した国、県、そのほかの

農業技術者のお力添えをいただくためのシルバー人材センターを設置してはどうかと考えるのであります。この社団法人シルバー人材センターの目的は福祉だけではなく、国の労働政策の一環といたしまして、高齢化社会を迎えて老後の生きがいを感じていただき、かつは社会のために貢献をしていただくということにあります。ぜひとも実現することが肝要であると指摘をいたしますが、市長の御所見をお示しいただきたいのでございます。

私はまだ自分では若いつもりでいますが、この当議場にも――失礼ですが70歳を越した大先輩もおられます。高齢議員も見られます。先輩議員の御同意もいただきまして、あわせて老若男女を問わず寝たきり老人の介護、あるいはホームヘルパーの仕事等のお手伝いをした人に点数を与え、やがて高齢化して不自由になったとき、点数に応じて手厚い扱いを受けることができるような制度をこの社団法人の仕事の中に組み入れてはどうかという提言であります。市長の簡明なる答弁を求めます。

最後の質問は、私の地元の九重、そして館野地区にまたがって建設が予定されておりますインダストリアルパーク計画の現況についてであります。申すまでもなく、この計画は県の企業庁で進めているものであります。平成7年を目途としていると聞いていますが、質問はその現況について、もう一点将来JRの踏切、線路を横切るための高架道路を開設しようという計画もあるように仄聞しております。この点を含めまして、現況の御説明を承りたいのであります。

以上で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの秋山議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の平成4年度予算編成方針についての御質問でございますが、景気の動向が懸念される中で、館山市の状況といたしましては21世紀に向けての新たな都市の基盤づくりがまさに始まったところでございます。財政運営はますます厳しくなることが予想されております。こうした中で、平成4

年度の予算につきましては、館山市基本計画の実現に向け、総合的、計画的な行政の実行を主眼に、館野、九重地区への給水と配水池の整備を中心とする全市的な第3次水道拡張事業並びに配水池の整備等三芳水道企業団第2次拡張事業及び公共下水道事業に着手すること、館山駅周辺市街地整備事業等の都市基盤整備並びに海洋性リゾートタウンの形成を中心とした地域経済の振興対策等を重要課題として、さらに福祉の向上、教育文化の振興等の実現に向けた予算の編成に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、予算規模につきましては、現在事務レベルにおきまして各課からの要求に基づき編成作業を進めているところでございます。また、国、県におきましても同様の段階であり、歳入歳出とも流動的な要素が多く、おおむね平成3年度当初予算に対し、5%前後の伸びになるものと見込んでおります。

次に、御指摘のとおり、我が国における最近の経済状況は減速基調にあり、市税、地方交付税等の一般財源は大きな伸びが期待できない状況にあります。市税収入等の一般財源、事業に伴う特定財源の的確な確保に努めるとともに、事業実施に当たりましては優先順位の厳しい選択の中で、財源の重点的、効率的な配分を行いながら可能な限り積極的な財政投資を心がけて、予算編成を進めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、富士ディーゼル跡地についての御質問でございますが、富士ディーゼル跡地の実測面積は10万4,147.67平方メートルで、今回下水道用地として買収する面積が1万5,000.14平方メートル、道路用地として482.79平方メートル、合計1万5,482.93平方メートルでございます。残りの跡地8万8,664.74平方メートルにつきましては、種々検討してまいりましたが、館山市におきまして取得することは極めて困難でございます。しかしながら、今までの市議会の御意向を踏まえまして、今後とも関係方面に対して働きかけるよう努力してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3の大規模ホテル誘致による館山市の活性化方針についての御質問でございますが、海洋性リゾートタウンのまちづくりを推進しております館山市にとりまして、ホテル等の宿泊施設は地域経済の活性化のために必要な施設であると認識しております。しかしながら、御指摘のありまし

た市民運動場の用地につきましては、社会体育施設として極めて有効的に広く市民が利用している場所でございます。したがって、ただいまの御意見は貴重な御提案として受けとめ、今後の検討の参考とさせていただきたいと考えます。

次に、大きな第4のホテル前の海水面にヨットハーバーを建設し、観光客を誘致する方針についての御質問でございますが、余暇活動の多様化や周遊型観光から滞在型リゾートへの転換が進む中で、マリンスポーツ、マリレジャー施設は国民にとって魅力ある施設でございます。また、館山市にとりましても同様でございます。ヨットハーバーの建設につきましては、過去において検討したことがございますが、さまざまな課題がございまして具体化に至っておりません。今後も関係者の理解を得るべく協議を重ね、努力してまいりたいと考えております。

次に、大きな第5、海上交通についての御質問でございますが、以前市は海上交通開設のため、民間事業者との研究、漁業関係者との話し合い、海洋性リゾートタウン基本構想や房総リゾート地域整備構想への位置づけ等の検討を重ねてまいりました。しかしながら、課題も多く現在は白紙の状態でございます。しかし貴重な御提案と受けとめまして、今後とも海上交通の開設につきましては関係者と協議を進め、推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第6の館山市農業振興のための技術指導にシルバー人材センターの設置活用についての御質問でございますが、定年退職した農業指導者を採用し、農業の振興を図ったかどうかのことでございますが、貴重な御提言をいただきました。今後シルバー人材センターの設置が具体化した時点で検討をしてまいりたいと存じます。また、介護ホームヘルパーにつきましても貴重な御意見として今後参考にさせていただきます。

次に、大きな第7の館山インダストリアルパーク計画の現況についての御質問でございますが、現在千葉県企業庁が平成4年度からの事業化に向けて準備を進めていると同っております。館山市といたしましても、企業庁との連携を保ちながら、地元及び地権者、さらには関係機関等との協議を行っているところでございます。

御質問の進入道路につきましては、地元及びＪＲ千葉支社、企業庁などと協議中でございますが、地元の意向を尊重して進めてまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りたいと存じます。

なお、企業庁からは平成４年度には用地の取得や測量調査などに入る予定と伺っているところでございます。館山市といたしましても用地交渉や地元対策などに全力を傾けて、工業団地の早期実現に向けて努力してまいる所存でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎１番（秋山光章君） 再質問をいたします。

年を越しますと来年の３月定例会を迎えます。現行の一般質問制度を改めまして、各会派を代表しての代表質問制になるということが議会運営常任委員会によって検討をされております。ただいま私が行いました質問は、もちろん一般質問の形式を踏んでいることは言うまでもありません。しかしながら、その内容は私が所属をしています拓世会の政策として一致を見たものであります。そういう意味合いからいたしますと、拓世会を代表しての一種の代表質問ということになりましょうし、そのような観点から市長を初めとする当局に答弁を煩わせたいのであります。以上、あらかじめ申し添えまして、再質問に入らせていただきます。

まず、質問の第１点はただいまの答弁によってよくわかりました。市長就任以来１カ年を経過した庄司市長には、庄司色を持った平成４年度予算案を編成され、市政進展にお尽くしくださらんことを要望して質問を打ち切ります。

第２点の富士ディーゼルの残余の跡地は、とにかく房総半島の南部ではこれほど広大な土地は残されていないのです。そのことを十二分に認識されまして、取得に全力を傾注すべきであろうと考えますが、市長の御意見を承りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの第１点の御理解ありがとうございました。

その線に沿いまして、新しい当初予算を編成してまいりたいと思います。

第2点目の富士ディーゼルの跡地問題でございますが、御答弁申し上げますとおり非常に広大な土地でございます。当市にとりましても地域住民にとりましても貴重な土地でございます。しかしながら、現在の館山市の財政状況等からしまして、市で現時点において取得することはこれは困難でございますので、今後御意見を尊重しながら各面と協力して検討を続けさせていただきたい、こう考えます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） ただいまの答弁で御所見は承りました。

そこで、第3点の私の質問と密接に関連するものでありますが、先ほどもお伺いしましたが、大事な市民運動場——考え方を変えまして、市民運動場が売却をできれば富士ディーゼルの残余の土地が購入にならないでしょうかという、そして、富士ディーゼル跡地に市民運動場を持っていったらどうかということを考えますが、マリンスポーツであれば海岸、海のすぐ前でなくてはいけないかと思いますが、野球、テニス、その他ならば富士ディーゼル跡地が買えたであればそこでも間に合うんじゃないかなと思いますので、当局の御見解をお聞かせいただきたいと思いますのでございます。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 市長の答弁にございましたように、ただいま市民運動場として利用している土地でございますので、今後貴重な御意見を伺いながら検討させていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） そのことでなんですが、一中の跡地を売却しても買えるだけの金額にはなりませんかどうか聞きたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 現在の市民運動場の土地につきましては、台帳面積において4万511平米というふうになっておりますが、そのうち農林省の所有の国有地がございまして、現地の市有地につきましては3万3,000

平米程度ということになっておりますので、それを売却しても富士ディーゼル跡地、残地全部は無理かと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 具体的な答弁ございましたけども、この計数はこの土地を換算計算、そういうまだところまではいっておりませんので、買えるか買えないかというのは——今部長答弁したのはちょっと保留させていただきます。お答えする段階ではございませんので。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） それでは富士ディーゼルの跡地の問題についてはこれで終わります。

第3点でございますが、ホテルを誘致したらどうかということでございますが、私の考え方に対しまして慎重に検討されているという御意向の表明がありましたので、その方向にぜひ進んでいただくことを要望いたしまして、2とあわせて質問を打ち切ります。

次は、第4点目の質問であります。館山市を活性化させるために今何が必要か、一つだけ上げよといいますと、やはり大規模ホテルの誘致とそれにあわせましてヨットハーバーの併設と申しましょうか、ホテルだけを考えてみましても採算に合わないかと思います。商売ベースにまだ今のところならないと思しますので、ヨットハーバーとホテルをワンセットとしてつくれば商売になるんじゃないかなということを感じましたので、この点に関しまして当局の御所見をお示しいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 最初に市長が御答弁申し上げましたように、こういった関係はマリンスポーツであるとかマリンレジャーというふうな形の中で、やはりあればよろしいということは、これはもう十分に認識しております。ホテルと一緒にということでの市の立場からしても全く同様でございますし——種々の問題があり、現在まで具体化はされておられません。しかしながら、貴重な御意見として承りまして、今後とも十分に検討してまいりたい

と、かように考えております。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） それでは、4番目の質問に入ります。4番目の海上交通路の開設であります、これはどうしても焦眉の急として東京と館山と私は質問をいたしました、さらに大島と伊豆の下田港を結ぶ具体的なプランも進められていると聞いております。これに對しましてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの就航関係につきましては、市の方に一切入っておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） わかりました。これは私どもの耳にはそういった情報も入っておりましたのでお伺いをしました。ぜひこれ早急にできたらお願いをしたいと、今までも何回かこういった折衝があったかと思いますが、少しでも早い海上交通路の設定をよろしくお願いしたいと思います。私はホテル、そしてヨットハーバー、そして高速艇の発着場を国会で今言っております3点セットというような言葉がありますけども、館山市政の観光のための3点セットとして可及的速やかに一日も早く実現することを強く望むものであります。

続きまして、6番目の問題に――再質問に入りたいと思います。次は、社団法人シルバー人材センターの設立と県等の農業技術者で退職をされました方々に登録を願うこと、そしてもう一つが老人介護等のボランティア活動に對しての点数制の問題、この2つに分かれるわけですが、要はまずこの社団法人を設立することを提言するものであります。御見解を承りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまのシルバー人材センターの関係でございますが、現在、これは県の方の職業安定課の方で進めている状況が県内で

15市ございます。それから、ミニシルバー人材センターが県内で1市ということでございます。これはいずれも年齢60歳以上、そして人員がシルバー人材センター——これは法人格でございますが——150人以上、ミニシルバーが100人以上。年間の就業ということで、ただいまのシルバー人材センター150人以上で6,000日以上、これ年間1人40日と、こういうふうな規定もあるわけでございます。これはただいま農業関係ということで私の方で御答弁申し上げているわけですが、市の方の高齢者の働く会という関係は現在25でございますか。ということでもって、そのほかの規定は任意団体でございますので全くございません。

御提案の農業技術者関係等の方々も含めましたそういう法人格のセンター設置に関しましては、これはもう大変行政上にとっても好ましいことでございますし、大いに欲しいところでございます。現在の市の高齢者働く会の方が60歳以上25名というふうな会員数でございます。したがって、ちょっとそちらの方の技術的な面がまだ——方々も入っておられないようでございます。将来的にそういうふうな内容が持たれて、法人格等になりました際にはぜひひとつお願いしたい、市としても望むところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御提案の介護ヘルパー——ホームヘルパーのことでございますけれども、市長答弁いたしましたとおり今後十分に参考にさせていただくというふうに考えております。基本的には館山市のホームヘルパー、43年からスタートしているわけでございます。そういうことで、大変古い在宅福祉の柱のノウハウを持っているわけでございますけれども、これからいろいろ在宅について施策を講じていかなければならない、そういう中でぜひ参考にさせていただきたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 御答弁ありがとうございました。社団法人シルバー人材センターに関する私の質問で触れましたとおり、ただいまも御答弁もありましたとおりこれは労働省、都道府県の労働行政の中で市町村に設立しよ

うとしているものであります。この点をまず認識をいただきたいと思います。そして、我々拓世会は先般九州の有明海に面しました鹿島市の社団法人シルバー人材センターを視察してまいりました。お年寄りが立派に働いているところを見てまいりました。後追いでも構いませんので、ぜひ館山でもこういうすばらしいことを追隨して行っていただきたいなと思っております。次は、最後の質問のインダストリアルパーク計画であります、これはまだまだ流動的な面が見られますし、地元の意向にできるだけ沿うように県との折衝に当たられんことを要望しまして、私の質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で1番議員秋山光章君の質問を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 質問に先立ちまして一言述べたいと思います。

今1991年、私初めて議員になりましてから3度目の一般通告質問となるわけですが、まだまだ不十分でございます。私は1991年の締めくくりとしての12月定例議会においての行政一般質問をいたします。しばらくの間御清聴をお願いいたします。以下、順次質問に移ります。私は既に通告をしてございます4点についてお伺いをいたしたいと思います。

まず、第1点目でございます。農業問題についてお伺いをいたします。今新聞やテレビなど、マスコミで連日のように話題になっております米の輸入自由化問題についてでございますが、御存じのように当初「一粒たりとも米は輸入させない」と政府は申してきたわけですが、最近ではガットのウルグアイラウンド交渉も大詰めを迎え、一部の国会議員や財界人から米市場の部分自由化容認の発言が相次いでおります。これに対し、生産者や生産者団体、消費者団体などの強い抗議行動が展開をされております。当市議会におきましても、今6月定例議会で自由化反対の請願が提出をされ、採択をされております。また、国に向けて意見書の提出がされたわけです。県におきましても1市を除いてすべての市町村議会で採択をされ、国会でも党派を超えて市場開放阻止に向けて3度にわたる決議がなされております。

しかし、ここへ来て部分自由化容認の発言などの動きは、米を犠牲にした我が国の貢献策を示そうとするものと理解せざるを得ません。我が国は牛肉、オレンジの市場開放、大幅な譲歩をしてきましたわけですが、このことによる国内農業へのしわ寄せ、長年にわたる米の生産調整、米価の引き下げなど、厳しい情勢が続いております。後継者不足が問題になるのもこのようなところにも原因が一つはあるのではないかと考えます。この米の輸入自由化に反対をしている安房地区労農会議でも、11月から12月初旬へと各種反対行動を実施してまいりました。その際、我が党でも街頭演説やチラシ配布等協力をし、行動をともにしているわけですが、館山市にもこの運動の一環として政府関係機関に対し、米の市場開放阻止に関する緊急要望書を提出をしていただきました。そこでお伺いをいたします。市長も米の市場開放に対しては危機感をお持ちのこととは存じますが、市としてこの問題をどのように考え、今後行動をしていくのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、大きな1の2点目でございます。この4月に牛肉、オレンジの輸入が完全自由化をされました。千葉県は酪農県として知られているところがありますが、この牛肉完全自由化により県内はもとより、国内の酪農農家が大変な経営困難に陥り、小規模な酪農家はやめざるを得ない現状となっております。房総の酪農は古い伝統を持っております。私の方の調査ですと、ことし1月のものですが、県全体で酪農農家で跡継ぎがいないと答えた農家が42%を占めております。高齢化ももちろん進んでいます。また、少し前の調査ですが、平成元年には酪農農家の実際に携わっている人の年齢は、県では72%が50歳以上で、現在ではそれ以上に高齢化が進んでいると言われています。また、平成元年の統計になりますが、館山市の乳用牛粗生産額は14億 5,000万円で農業粗生産額の19.4%をも占めており、この年の千葉県の生乳の生産額は400億、これは北海道に次いで全国2位の位置を占めております。

しかし、1986年ころから保証乳価が低落を続けており、翌年以後は加工原料乳が乳脂肪率 3.2%から 3.5%へと引き上げられ、乳質改善のためにとペナルティー制度を導入されました。基準に満たない生乳出荷農家からはペナルティーとして一定率のお金を徴収するため、農家はこの脂肪率を下げない

ため、ほとんどが輸入物の乾燥等を与えるよう指導されていると聞いております。この制度導入のために高齢化に拍車をかけてやめていく酪農家が多いと聞いております。

また、その上にこの4月の牛肉の完全自由化によりまして、子牛価格や廃牛価格の暴落が起こり、肉用の子牛が約3分の1の値下がり、廃牛も半値以下に値下がりをし、売りに出すための輸送料さえも持ち出すこともあると聞いております。また、業者内では既に産業廃棄物扱いになっているという声さえ聞きます。この問題は農家にとって大変な痛手となっており、四、五頭クラスではとてもやっていけないと、やめていった農家が大変多いと聞いております。市内でもかなりの頭数を飼育している農家が、この価格暴落のためにやめようかと今考えているということです。

当市では昭和45年に豊房育成牧場が開設され、現在安房畜産農協に委託をされていますが、市としてこの育成牧場にどのような補助をしてきているのか伺いをいたします。また、こういった現状を踏まえた上、今後どのようにかわっていくのかをお伺いをいたします。

次に、大きな2点目でございますが、館山幼稚園跡地についてでございます。この問題につきましては、我が党の先輩である前議員がちょうど1年前のこの12月議会で質問をいたしました経緯がございます。園児の送り迎えのための駐車場として、その後の市としての考え方を伺います。

私の地区内からも通園をしている園児がいますが、いつも父兄の方々から尋ねられることは、「市の公共事業の代替地として利用すると聞いているけれど、駐車場が利用できなくなったらどうするのでしょうか」という疑問の言葉です。現代は車社会と言われ、館山幼稚園は通園学区が大変広く、車でなければ通園できない方が多いという認識をしておりますが、先日は私の知り合いの方、この方父兄でございますが、自宅から園まで約2キロあるそうです。いつもは車で送り迎えをしているのですが、この跡地の問題につきましては非常な関心を持っておられ、この方は自転車がお宅にありませんので、歩いて通園をしてみたそうです。園児と一緒に歩いたものですから、かなり急いだつもりでも40分もかかったということです。「こんなに時間がかかっ

てはとても歩いて通園はできない」と話しておられました。

こうして真剣に駐車場の問題について考えて、独自に調査をされている方がいらっしゃるわけですから、今車の駐車場、社会的に大変な問題になっており、私たち車を運転する者にとっていろいろな意味で駐車をする際には気を配っている現状があります。駐車違反に対する取り締まり強化もあります。こういった社会の現実を見据えた上で、館山幼稚園跡地は園児の送り迎えのための駐車場として、幼稚園の所有地にするという形がよいのではないのでしょうか。父兄の方々や住民の方々には市の代替地であるということが将来的にも非常に不安を持っております。ぜひ園の駐車場として確保をしていただき、将来的にも安心をできるような御回答をいただきたいと思います。

次に、大きな3点目でございます。青柳市道 208号線の修復整備についてお伺いをいたします。この市道は近年交通量が非常に多く、通勤時間帯には大変な交通量でございます。この道路は池田団地や引田団地、また、南条、大網方面の方々が主に利用されているようでございますが、御存じのように各この方面には現在住宅が年々ふえてきております。したがって、交通量もふえてくると思われますので、この道路の近隣の方々から「ここ数年、側溝には常に生活雑排水がたまった状態で、夏場にはにおいもするし、不衛生である」とのことでございます。私も何度か伺ってみました、いつも水がたまった状態であり、市の方に応急措置をしていただいたわけですが、雨が降りますとこの道路、水があふれた状態で道幅も狭く、カーブでもあり、危険な状態のために道路、側溝、あわせて整備をお願いするところですが、この近くには川名大賀線の計画があるとされていますので、この道路との兼ね合いもあろうかと思えます。そこでお伺いをいたしますが、この川名大賀線の計画はどのようになっていますでしょうか。また、この道路側溝整備を川名大賀線の工事の際、整備をしていただけるかどうかをお伺いをいたします。

次に、大きな4点目の質問でございます。福祉カーの利用についてでございます。昨年10月1日からですが、館山市でも県の指導のもとに福祉カー——これは館山ではゆうあい館山号と呼ばれているようですが、この貸し付け事業としてスタートをいたしました。この事業の目的といいますか、趣旨

は市内在住の心身障害者、障害児及び高齢者の社会参加を促進し、福祉の向上を図るということです。

私この10月に委員会で九州の久留米市へ視察に行っていました。久留米総合福祉センターに着いたところ、2台の福祉カーが横づけされており、ちょうどリハビリ訓練を終えて帰宅する方が車いすに乗ったままリフトで乗車作業をしていました。2台ともリフトカーだったわけですが、私はこの現場を見て非常に感激いたしました。センターの方に聞いたところ、「もう1台センターにあって、また市にはタクシー券を利用するリフト付きのタクシーが民間のタクシー会社にある」と聞いてまたまた驚いてしまったわけです。なぜそんなにリフト付き福祉カーやリフト付きタクシーが利用されているのか伺いましたら、「この福祉センターは市の外れにあるため、市ではさまざまな足の確保に、ほかにゆうあい号と呼ばれる福祉バスがあります」ということでした。この福祉センターに通う障害を持った方々は、このセンター内にあるリハビリ訓練に通う人たちや作業所に通う人たちで、非常に中身の濃い総合福祉センターだったなという認識を持ちました。人口等館山市とは比べものにならないほどの大都市でございますが、「高齢化率は12%で、これから高齢化社会に向けてさまざまな対策を考えていかないと、まだまだこれでは不十分です」ということでした。

館山市でも昨年の福祉カー事業スタートを受け、大変喜ばしいことなのですが、この福祉カーはリフト車ではなく寝台つきで回転いすです。実際に私も見せていただきましたが、車に乗車する際には介助者が最低2人は必要かなという気がいたしました。また、利用状況ですが、去年は旅行が4件、病院等で1件、本年度は旅行が1件、病院等利用5件と聞いております。障害者の社会参加はとてもよいことだと思います。このゆうあい館山号は市として主にどういうことに利用をしてほしいのかお伺いをいたします。また、病院などへの利用をしている方がいらっしゃいますが、通院に利用をされているのでしょうか、お伺いをいたします。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、農業問題についての小さな第1点目、米の輸入自由化についての御質問でございます。ただいま国家間における最大の争点となっております問題でございます。現在、全国市長会の決議として、米の輸入自由化阻止に関する緊急要望書を政府に提出しているところでございます。

次に、小さな第2点目の牛肉の市場開放につきましては、自由化に対する対応策といたしまして、国や県が価格の安定対策、品質向上対策、経営安定、合理化対策等を打ち出しておりまして、市といたしましては国、県の事業に応じて今後とも努力してまいりたいと存じます。

また、豊房育成牧場につきましては、昭和45年度に開設いたしました。その後、昭和58年10月から安房郡畜産農業協同組合、これに運営管理を委託しております。土地につきましては6,017アールを借用、常時100頭を受け入れ、1頭1万5,000円で約1年間育成しているところでございます。

次に、大きな第2の旧館山幼稚園跡地についての御質問でございますが、今まで何回かの御質疑ございまして、お答えしてまいりましたとおり、基本的には市が行う事業の代替地として利用する所存でございますが、具体的な活用に当たりましては、その時点の周囲の状況等を十分考慮しながら進めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、市道208号線の修復整備についての御質問でございますが、現在設置しております側溝の流水状況を調査し、必要に応じて対処いたしたいと考えております。

次に、大きな第4の福祉カーは現在どのように利用されているかとの御質問でございますが、この福祉カーは心身障害者及び高齢者の社会参加を促進し、福祉の向上を図ることを目的とし、利用されております。平成2年度の利用状況は利用件数6件、利用者25人でございます。利用目的といたしましては旅行が主なものでございます。平成3年度の利用状況につきましては、11月末現在、利用件数6件、利用者9人でございます。利用目的といたしま

しては、病院等への移送が主なものでございます。市といたしましては、社会参加という観点から個人はもとより社会福祉団体等に積極的に活用していただくようPRを図っているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 再質問させていただきますが、大きな1の小さな1点目、輸入自由化についての市の考え方を伺いましたが、これはこの12月—11月でしたか、安房地区労農会議の要請の中でお願いがされていたと思いますが、垂れ幕など、掲示や宣伝活動をしてくださいというお願いしましたが、検討をしていただけましたでしょうか、どうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの関係につきましては、具体的な細かいことは実際にやっておりませんが、先ほど市長が申し上げましたように、この過ぎた11月13日でございますが、全国市長会含めます6団体でもって国に対して緊急要望ということでもって出しております。また、当それぞれ農業関係者をもって国の方へも働きかけをやっているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 緊急要望書を出していただいたり、農業関係者との働きかけをなさっているようで、結構前向きにやっていただいているようでありがたく思います。

この輸入自由化のことなんです、この問題は国レベルの問題とよく言われますけども、国レベルの問題じゃないわけですね。これ私たちが毎日食べている米のことなんです。私たちが今食べている米は1食が約40円程度とされていますけども、この値段は15年前と同じ生産者米価でありまして、農家の方はこれ採算がとれないまま承知で米をつくり続けていたからこそ、私たちはこの値段でまだ米が食べれるわけです。農業機械や肥料等いろいろ諸物価も上がっております。農家の方々の経営が苦しくなって、やめていこうと思われるのも無理はないかなという気がします。

また、房州地方の米は — 房州地方のこの条件といえますでしょうか、田んぼ、非常に湿田とたな田が多いわけで、県北の基盤整備がされている地域、そういった地域に比べますと10アール当たりの収穫量が30キロ近くも少ないというふうに聞いております。30キロという量は、私たちが年間に食べる米の量が1人約75キロと言われておりますので、相当量なわけです。市の基本計画にもありますほ場整備、この整備を一層力を入れて行っていただけるようをお願いをいたします。

次に、大きな1の2点目、牛肉の自由化の問題でございますが、ただいま御答弁にありましたように私も先日育成牧場の方、見せていただきました。あれだけのものを4人の職員の方でやっていらっしゃるということで、本当に大変だなというような気がいたしますが、また酪農農家への対応なんですけれども、酪農農家の方々が、これ酪農が衰退していくという原因が一様に皆さんおっしゃるのは、乳価の低迷によるものが大筋を占めていると皆さん答えていらっしゃる。これは御存じでしょうがペナルティー制度、乳脂肪率を上げるための、あと乳固形量ですか、細菌数ですとか、そういういろいろなことに対してのペナルティー制度の導入、この問題は本当にさまざまな問題を残しており、市としてもこの制度の問題点など県や国、または関係機関に対しても働きかけていただきたいというふうに思います。また、市内の酪農農家に対しても輸入物の高い飼料を買わずに済むように補助制度を設けていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの関係ですが、乳牛につきましてはただいまの鈴木議員さんからもお話ありました豊房育成牧場という形の中で、一応もう申し上げましたが、月1万5,000円ということで100頭、これをお預かりして飼育に努めている、こんなふうな状況でございます。また、食肉牛につきましては、確かに非常に安くなってきている、したがって市内では現在14戸ですか、というふうな非常に少ない飼育農家数ということも言えるかと思います。

これらのいろいろな補助的などいいますか、こういった関係というのは現

在牛に関しましては市が直接というよりは安房畜協 ― 御存じだと思いますが、ございます。ここでもって例えば交雑種、品種の良質化というふうなことでもっての関係やら、こういったものも進めております。これらすべて大体牛関係につきましては国、県単位でもって実際に事業が実施され、またそういう関係機関、ただいま申しあげました安房畜協等への補助と、こんなふうなことでやっております。しかしながら、市としてもこれは直接には補助制度、これは豊房育成牧場だけになりますが、以外のものは現在ございません。しかしながら、そういう面での自由化等に関しての問題というのはやはり相当大的な問題でございます。これらに関しまして、当然これはバックアップといいますか、そういった関係を国にもさらなる補助制度の増というふうなことも働きかけてまいりたい、かように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） バックアップをしていただけるようで、本当に期待を持って見たいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

次に、館山幼稚園の跡地についてなんですが、どうも状況が変わっていないとか、ただちょっと変わったかなというのは周辺の状況を考慮してということですが、幼稚園の所有地としたらどうかという質問にはどうお答えいただけるでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 基本的には公共事業の代替地ということで、教育財産への移管については考えておりません。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 考えておりませんということですけども、少なくともこれ長い間の期間のことです。はっきりしたことは数字はわかりませんが、私が話を伺った方はこの問題が出てからのお子さん ― その当時通園なさっていたお子さんがもう大分大きくなられた、もう幼稚園にはいない、こういうようなことで、それでもやっぱり皆さんは将来的に本当に不安を持ってい

らっしゃるということは事実なんですね。

今先ほども申しましたが車社会ですね。車がないと成り立たないという状況があると思うんですが、これちょっと視点を変えまして、市内のほかの幼稚園で同様に駐車場について、例えば苦情があるとか道路が混雑して困っているとかという問題、ほかに箇所ありませんでしょうかどうでしょうか、伺います。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 館山幼稚園の問題につきまして、いろいろと御配慮いただきましてありがとうございます。現在のところあれだけの車で通園されていていらっしゃるわけでございますから、一時的には若干の混雑があるやに承っておりますけれども、正式といいますか、きちとしたことで通園につきまして土地の方々が非常に困っておるという話は聞いておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 困っているという話は聞いていないということですが、例えば九重幼稚園、あそこも何か道路が非常に狭くて、通園するときは近所の一般の方々が車を動かすのに非常に困っているという話は聞きますが、こういった問題はさておきまして、これ本当にこういった状態をずっとほうっておいて本当によいものなのかどうなのかというのをもうそろそろ決断を出されてもいいんじゃないかなと思うんですが、一つお聞きします。御答弁なさったのは経済部長でしたので、経済部長に一言お聞きしたいんですが、例えばお仕事に来られるとき駐車場が車で満車になっていたらどうなさいますか、お聞かせ願います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 私のようにございますが、実は私普通免許持っておりませんで、自動二輪でございます。ですから、余りそういったのにあったことございません。大変どうも失礼しました。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） これはもう本当に車がないということで認識不足だ

ったわけですが、私も車運転しますけども、最近本当に取り締まり強化ですか、やっぱり私たちがなるべく駐車場のあるようなところへ、駐車するとき車が満車だったら私は行きませんが、やっぱりそうもいかない場合もあるわけですし、この館山幼稚園の跡地は利用されている方はもちろんですが、この近隣の住民の方々も送り迎えのための駐車場としてほしいと言っている方が非常に多いわけで、園の所有地として今後も使っていけるよう、本当にこの件は長い間——私がかかわって議論したわけじゃないんですが、非常に長い間の議論をされているわけですから、もうそろそろ対処をしていただけるとよいと思います。この件につきましては、引き続き再度要望を強く申しておきたいと思います。

次に、青柳の市道 208号線の件ですが、川名大賀線の計画はどうなっていますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 館山白浜線バイパスの都市計画道路、川名大賀線については平成7年度完成を目標として今鋭意努力しておるところでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 平成7年度完成ということは、もうあらかたの線は出ているわけですね。例えば、どこどこを通りますよという線は出ていますね。設計はされていますねということです。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 以上のとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） この問題の箇所なんですけども、この川名大賀線とのかかわりはどうなるのでしょうか。大分離れるのでしょうか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） この池田団地周辺の排水の問題については、過去何人かの議員さん方から何回となく解決の方法はないかということで御質問いただいております。その抜本的なものについては、やはりこの大賀線が

でき上がりませんとどうしようもないということでございます。そして、これについては館山土木事務所において、地元役員と協議を進めながら詳細設計を今しておるところでございます。そんなことで、大きなものについては解決できると思っております。ただ、今度細かくなりますその御指摘の周辺については、これについても今計画をしておりますので、それが終わりますと大体全部が解決できると思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 大体この地区、確かに排水、下水、本当に困っているわけでして、川名大賀線完成の折には大体大きなものは解決できるという御答弁でしたので、ここはこの地域に値しないようなんで、この市道は以前にためますなどつくっていただいた経緯もあります。また、ところが東側からの水の流れはこのためますをつくっていただきましたので、非常によくなって地元の住民も喜んでいるわけなんです、その西側の方に関しましては若干の勾配異状がありますので、ぜひ整備をしていただけるようによろしくお願いをいたします。

4点目の福祉カーについてでございますが、この制度、事業は昨年10月1日からということで、そんなに古くはないんですが、リフトカーにするのか、回転式にするのか——スライドアウトシートというんですか、回転シートのことですね。この話し合いはどういうふうな人たちが話し合ってこれに決めたということでしょうか、お聞かせをお願いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 福祉カーの機種を選定につきましての話し合いはどうかということでございますけど、これは福祉事務所のいわゆる福祉係、内部の現場を持っている方々が慎重に検討いたしまして、スライドアウトシート型を導入いたしました。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） もう一つお聞きします。ということは、例えば実際に介助している方や当事者等の意見はここには入っていないんですね。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 実際にこの機種の選定の場合に入っておりませんけれども、実際に福祉の担当者が現場に行って、現在あるリフト式カーのいわゆる危険度、そういうものも見ております。そういうことでやはりこの電動式のリフト付きの福祉カーはこの目的からして適当でないということでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私は御存じのように在宅介護やっているわけですが、私はリフトカーの方がいいなという認識を持ちます。これ回転いすに移すときに介助する人が細かな作業ありますし、不安定ですし、これ最低2人は必要かと思うのですが、この方法に問題があるとは思いませんか、お聞きをいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 確かに、御指摘のとおりリフトカーの場合には、電動式の場合には自動的に車いすのまま福祉カーの中に入れるわけでございます。ただ、これも一長一短ありまして、この福祉カーは貸し出すわけでございまして、いわゆる運転する方が不特定多数な場合でございまして、そういうことで、実際電動福祉カーの導入をしているところにも伺いまして聞いたところなんですけれども、やはりいわゆる危険がある、やはり手動の方がいいということでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） リフトの自動の作業が危険であるというふうにお思になったんだろうと思うんですが、私この福祉カーの件ですが、新聞で初めて見まして、これは本当にいいことだなというふうに思いまして、実は私も病院に連れていく場合は普通の車で、例えばトランクに車いすが折り畳みで入れられるとかそういうふうな方法で何とかします、近場は。ところが、長い間の長距離を走る場合の旅行となりますと、やっぱり考えてしまう。考えてしまうというのは何を考えるかという、やっぱり一番心配なのはトイ

レなんですね。車いすの方々はほとんど寝たきりの方々はおむつをなさって
いたり何かしていらっしゃる方が多いと思いますが、車いすに乗っていら
っしゃる方というのは余りおむつをなさっている方いらっしゃいませんね。そ
れで、今御存じのようにいろんなところで公共施設でもそうですが、障害者
でも入れるようにトイレなども車いすで入れるようなふうになっていますね。
だから、そういうことで旅行なんかに出かけるときは非常に安心は安心なん
です。あそこにトイレがあるけども、車いす入れるな、ところが普通の車だ
とやっぱり手間がかかる。トランクから車いすを出して、組み立てて、移し
て、そして行く。こういう作業が時間かかるわけです。

この館山のゆうあい館山号ですか、私も先日見せていただきましたけども、
あれじゃ本当に作業に時間がかかって大変です。ほかの地域でも、例えばこ
の近隣で言いますと富山町ですとか天津小湊町などはリフトつきですよ、
確か。それでいろんなところ私も拝見しましたけども、リフトつきがやは
り大筋を占めています。危険性のことをお考えになったのかもしれませんが、
私、介助するものに言わせると、やっぱりそういう方の意見を聞いてほしか
ったなというふうに思います。やっぱり当事者の意見というのは聞くべきだ
と思うんです。

もう一つここで思うんですが、今まで私も6月、9月と質問してきました
中でも、本当に常日ごろ感じているんですが、どうも行政サイド、一生懸命
考えてやっていたらっしゃるのはわかります。一生懸命やっていたらっしゃるな
というのわかります。けども何か足りない。やっぱり声を聞いていない
からです。介護者や福祉従事者、行政サイド、こういった人たちの懇談会と
かさまざまな制度の検討会、こういったものをやってみるというようなこと
があってもいいんじゃないんでしょうか。そうすることによってこの利用者
の意識の変革、または行政サイドの積極的な取り組みを促すことができます
し、これこそ愛情の通った福祉対策ができていくんじゃないかなというふう
に思います。館山市は昭和49年、これ福祉都市宣言をしているわけですから、
この宣言が泣かないような対策を今後願うものであります。

以上、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告いたしました3項目について御質問を申し上げたいと思います。

御承知のように、現在ソ連では20世紀最大の改革が行われているようでございます。これによって、世界の様子もこれまでに考えられないような変革がなされようとしていることは御承知のとおりでございます。日本におきましても、必然的に変わらざるを得ない状況にあると思います。こうした中で、館山市も旧態依然とした市政を続けていることは許されないと思うのでございます。そこで、21世紀を目指し、発想の転換を求める立場から質問を申し上げたいと思うのでございます。

まず、第1は教育問題でございます。市長も教育長も教育一筋に生きてこられた専門家でございます。その経験をぜひこの際生かしてもらいたいと思うのでございます。すなわち地元産業の発展と結びつく教育を実現してもらいたいと思うのでございます。具体的には、現在館山市は市政の最大の柱にリゾート開発と取り組んでおります。さらに、インダストリアルパーク計画により、先端産業の誘致をしようとしているのでございます。しかし、これらの職場に働く地元の青年の教育は十分であるとは思えないのでございます。

時代の最先端を行くハイテク工場、NMBセミコンダクターを誘致しましたが、そこに働く人がいないという状況がございまして。毎日のように新聞に募集広告がでかでかと出されております。それでも就職する人がいないのは館山市の恥であろうと私は思うのでございます。市長と教育長はこの点をどのように受けとめ、考えられておられるのかお伺いをしたいのでございます。世界最先端を行くNMBセミコンダクターの人が集まらない状況では、リゾート開発やインダストリアルパークの計画が実現されたとしても、雇用難で大変な事態に至ることは明白でございます。市長が施政方針で声を大にしても、それは空念仏に終わってしまうのであります。

そこで、昔から変わらない市内における高校の教育学科の再編成をするた

めに市民運動を起し、県立高校に対しては県に地元産業と結びついた専門学科の設置をしてもらいたいと思うのでございます。また、リゾート開発を見越して観光産業学科とか、また外国によくある高校のホテル経営学科のような専門学科を設置して、地元の高校から毎年 100人ぐらいの人はいつでもこうした企業に応募できるようにすることはできないのでしょうか。この点をお伺いいたします。

2 番目は、NMB セミコンダクターのようにこれからの産業の中心になるハイテク産業にすぐに就職できるような専門学科と、情報化時代に対応したコンピューター専門学科の設置等をするのもできないのかどうか、この点についてもお伺いをいたします。

3 番目に、館山市は昔から文武両道の教育が盛んで、その成果は目をみはるものがございました。しかし、現在の高校教育では通用しなくなってきております。スポーツは体育科、勉強は普通科で小、中、高一貫でいなくては、県大会に出場してもよい成績を上げることは望めません。進学も、希望する大学には入学できない状況でございます。すべて中途半端になっているのが今日の館山市内の状況でございます。地元高校に体育学科をぜひ設置してもらいたいと思うのでございます。私はどんなに努力しても高校に体育科がなくてはスポーツは伸びないと思うのでございます。この点についてお伺いいたします。

教育はもとより基礎学力を身につけると同時に、社会に役立つ人間を育てることが大切だと思うのでございます。30年前に日本では初めてコアカリキュラムを導入し、実践した北条小学校が館山にはございました。館山市の教育は時代の先端を常に走っていたのでございます。したがって、当時の館山市の柔道、剣道、水泳、野球、バスケットを初め、あらゆるスポーツで県下に敵がないような状況であり、東京六大学にも多くの子供たちが進学していたのでございます。これらの点を振り返って、率直な答弁をお願いしたいと思うのでございます。

2 番目の問題は、環境美化とごみの搬出場所を抜本的に改善するために創意工夫をしたボックスの設置について質問をいたします。生活文化の向上と

ごみの搬出量の増大は比例をしているようでございます。世界的に見ても、国内的に見ても生活文化の進んだ都市ではごみ問題と悪戦苦闘をいたしております。東京都では既にごみ戦争を宣言をして、大問題になっております。館山市も生活文化が向上しているので、ごみ問題は深刻になりつつあると思うのでございます。特に、観光都市を目指す館山市はまちの美化のためにごみ問題は真剣に考えなくてはならないと思うのでございます。現在、分別回収や広報によるPRで改善の努力はなされていると思われまゝ。しかし、ごみの搬出場所の多くが直接道路と接している点、またごみ袋の普及により汚れは相当解消されていることは認めますが、それでも犬、猫、カラス等による食い散らしは時々目にするとおり、非常に嫌な感じがするわけでございます。

そこで、文化都市館山の面目にかけても、ボックスによる回収、搬出場所の固定的設備の設置による抜本的な改善をすることができないのでしょうか、お伺いをいたしたいと思うのでございます。私は搬出場所の数からいって、一度には無理だと思われるわけでございますが、年次的に取り組んでいけばできるものと思うのでございます。また、固定的な設備の設置については、市民ぐるみの創意と工夫を凝らしたものにすることを私は要望したいと思うのでございます。この点について、率直な御答弁をお伺いいたします。

3番目に、リゾート開発の全国的な状況から見て、館山市の今後の見通しについて御質問を申し上げたいと思うのでございます。鳴り物入りで成立したリゾート法は、当初から矛盾を持ちながらもブームに乗り、各県が競って指定を受けてまいりました。特に、館山市は南たてやまマリンパーク計画、館山レインボー計画、太陽海岸平砂浦計画の3つの拠点計画が許可され、その規模と内容は全国屈指のものとなっております。したがって、市民のこの開発に対する期待は非常に大きなものがあるのでございます。しかしながら、最近全国的にリゾート開発は企業の採算性の面から、2番目には開発による環境破壊の問題、3番目には地元民に与えるメリット等の問題から行き詰まりを来しておると言われております。バブル経済の崩壊も加わり、今や絶望

的な状況になっておるところは、周知のとおりでございます。政府や国会の中でも早々に見直しを検討をされておると言われております。また、テレビ、新聞の報道でもリゾート開発に投資をしたところの資金が企業でも自治体でも回収できずに困っているところが紹介されております。

昨年秋のNHK特別番組で報道された館山市のリゾート開発による土地買収のからくりは、日本じゅうの視聴者にひんしゅくを買ったところでございます。そして、館山市を重点にした中核的企業であった大林組の撤退があり、市民にこのことによって大きくショックを与えておると思います。こうした状況の中で、現在館山市で行われている3つのリゾート開発の状況と見通しについてはどのようになっておるのか、本当のところ率直に私は説明をしていただきたい。この点について市と議会と市民が一体になって理解をし合い、そして取り組んでいかなければ、近い将来大変な事態を招くというふうに思うからでございます。また、大林組の引き揚げによる計画の変更は当然あったものと思われます。1年を経過した今日、どのようになっておるのでしょうか、この点についても具体的にお伺いをいたしたいと思います。

以上、御質問申し上げましたけれども、わかりやすく御答弁をお願い申し上げます。

答弁によりまして、改めて再質問をいたしたいと存じます。以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時54分 休憩

午後 1時03分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数28名、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、管内の高校に地元産業の発展と結びつく専門学科とスポーツの振興をするための体育学科の設置の促進についての御質問でございますが、教育長より答弁いたします。

次に、大きな第2の創意工夫をしたボックスの設置についての御質問でございますが、ごみの搬出、収集処理には住民の理解と協力が必要不可欠でございます。館山市といたしましては、平成2年度から環境美化カレンダーを作成、各世帯に配布し、ごみの出し方、分別方法等の周知徹底、ごみに対する意識啓発と高揚を図っているところでございます。ごみ搬出場所はごみ収集までの地元住民の共同保管所でございます。ボックスの設置につきましては、地元住民により自主的な話し合いの上、設置や管理がなされております。過去においてボックスがごみ捨て場になり、困った例もございます。ごみ搬出場所は現在市内に約1,400カ所ございます。そのうち180カ所がごみの散乱防止のため、地元住民により自主的に防護さく等の措置が講じられております。今後も引き続き住民の意識啓発と高揚を図ってまいります。

次に、大きな第3、リゾート開発の今後の見通しと対策についての御質問でございますが、総合保養地域整備法に基づく3つのプロジェクトの現況につき申し上げますと、太陽海岸平砂浦計画につきましては、現在県と事前協議中でございます。南たてやまマリンパーク計画につきましては、現在県と内協議が終了し、事前協議に入ろうとしている段階でございます。館山レインボータウン計画につきましては、現在後継企業はございません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、地元産業に関連する専門学科及び体育学科の設置に関する御質問でございますが、高等学校における学科の改編につきましては、現在千葉県高等学校改編推進協議会が設置されまして、そこで検討されております。県立高等学校の学科の新設につきましては、県教育委員会の所管でございますが、館山市教育委員会といたしましては、社会情勢の変化や中学校卒業生

の志望動向等を把握しながら、安房地区高等学校長協会と連絡をとりつつ、県教育委員会をお願いをしていきたいと、このように考えております。したがって、御質問の地元産業に結びつく学科及びスポーツ振興を図る学科の新設につきましても同様の立場で、県教育委員会をお願いしていきたいと、こう考えております。

安房地区には職業高校として安房農業高校、館山高校、安房水産高校等があり、特に館山高校の工業科、商業科はインダストリアルパーク等の需要に応えることが可能な学科であると考えております。いずれにいたしましても、高等学校の学科、特に職業に関する学科の見直しが迫られておりますので、その改編を注目してまいりたいと、こう考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） それでは、最初にこのごみの収集について再質問したいわけでございますけれども、今の答弁でございますと、今の状況でいくということでございますので、ボックスによる回収、これは考えていないのでしょうか。また、それをやろうという計画を検討しているのかどうか、この点についてまずお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ボックスの設置による回収でございますけれども、いわゆる現在やっております搬出場所にボックスをつくって、そこに入れるということだと思いますけれども、あくまでも今までどおりやっていきたい、それは過去にやはりそのボックスをつくったおかげでゴミ捨て場になってしまったというような例もありますので、現行どおりやっていきたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） それはかなり合理化されて、今の段階は小康状態だろうというふうに思います。私はこの件につきまして、大分前からいろんな人に意見を聞いてきたわけでございます。結論的に言って、やはりポリ袋に入れて、ああいう形で回収しているのは館山としては最善の策ですけど

も、これから将来はやはりボックスというんですか、箱なりポリバケツなり、ああいうものに入れて回収するというのがやはり進んだ形であり、将来そうなるのは私は当然の成り行きだと思います。

私もこの9月にちょっとヨーロッパを——個人的でございますけど回ったんですけど、都市の主なところではほとんどそういう容器でもってやっているもんですから、ほとんどそういうものはございません。1つは、私は余り感じませんが、ほかの市町村から来るとあの袋が道端のところへ積んであると随分おくれた田舎だなという率直な感じがするようでございます。これはもう非常にもうイメージ的に、文化都市としては絶対もう何というんですか、もう絶対的にもうそれを克服することできない。きれいだというだけで自己満足であって、それが一つ先へ進んだ、やはり箱なりケースでこれをやっていくという形をとらないと、このまちはきれいなまちだなど、このまちは進んだまちだなど、こういうイメージ、これはもう絶対的なものであるというふうに私はいろんな町村にも聞いていくとあるわけです。

館山市も従来有形でもってそういうことはいいんですけども、やはり文化都市を標榜し、それでこれはリゾート開発して観光都市で出ようというときに、これはやらなきゃならないので、今やっぱりやる時期じゃないか、こう申して、私はそういう面で私は3つの提言とも今まで考えていなかったんですけども、とにかくソ連という国がなくなるような時代ですよ。これによって世界じゅうも変わるというような中で、館山も旧態依然たる状態であれでもって何とかなっているということじゃなくて、思い切ってこれはもう——県下でも幾つかそういうボックスを市で補助金を出してつくったり、いろんなことをやって解消しているわけですから、そういうふうにする意思はないのかどうなのか。これはもう前向きに検討してもらわなきゃ、今までこうだったからこうだからって、ずっとマンネリ化しているような状態だと思うんですけど、この点について市長はどんなように考えるかお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 御指摘の収集場所のボックス設置でございますが、

かつて — 現在もそうですが、千葉市がダストボックスを設置してごみ収集に当たるといことで、これ全国的にも画期的なことだといことで、各地から視察団が殺到して千葉方式といことで、大変千葉市の名前が上がったわけですが、現在になってみるとそれが千葉市のごみ政策のおくれになっちゃっている。といいますのは、分別も十分に行われないで、何もかもそこへ入れられちゃうというような事態で、見直しの時期に来ていると言われているわけですが。そういうわけですので、一つの御提案とお聞きしまして、今後検討をしていきたいと、このように思います。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） いろんなものには長所と欠陥があるわけです。ですから、そこで創意工夫をしてやれといことで提言しているわけです。

私は過般浜松へ行きまして、浜松の郊外の都市へ行ったんですけど、あそこはふるさと創生でもってごみ箱をちゃんと駅とか幾つもそういうところへ積んでいるわけです。そこの前にいろんなウサギだとかイノシシだとか、いろんなそういうものをやって、絵をかいてきれいになっているんです。それが、子供たちに「ウサギちゃんのところへこれ捨ててきてね」といことでもってやらせるとかいうことを聞きました、そこのまちの人に。非常にふるさと創生資金も有効に使っているんだと、全部は行きませんが、町内何カ所だと、1億円ですからうちの方のまちですか、村はかなりいきましたよ、見て非常に感じがよかったですよね。やっぱり館山は館山なりにそういう面でいろいろ工夫して、ボックスが一つの美化になり、子供たちとも親しめるようなもの、そういうものを出していくというアイデアといんですか、創意工夫をしていくべきだ。それはもう千葉の方式はかなりその問題もあろうか知らないですけど、館山の5万都市なら5万都市、80万都市とは違ったそういう小回りのできる — できるはずですよ。

それで、もうポリの回収によるというのは、これはもう絶対時代おくれになります。永久にというわけじゃありません。もう文化が進めば必ずもうヨーロッパ並みにボックス等のケースになるわけですから、館山もそういう面でやっぱり先取りした市 — かつての館山というのは非常に何でも先取りし

ていたんですけども、最近はそれに甘えて全くおくれ、おくれでもってどうにもならないということですから、これは継続していってもあれですけど、今回は可及にしてやっぱり館山のまちをきれいにする。そして、やっぱりごみが道路のわきにあたりしないように、それからそういうことで万全を期していますけど、さっきも言いましたように時々カラスや猫が食いかじって、散らばってもう見るに見かねない状態もあるわけです。これはもう聞けば、犬や猫が来てこれはもうやむを得ない、犬や猫を退治してもらいたいと、こういうことになっちゃうんで、そういうことじゃやっぱりおくれた市政であるから、ひとつこのごみの問題については前向きに考えていただきたいと、要望してこの点については終わります。

それから、2番目のこのリゾートでございますけれども、この今の市長の答弁でございしますと、非常に何というんですか、トーンが落ちた感じがするわけでございしますけれども、この太陽海岸平砂浦構想でございしますけど、これは事前協議中ということですから、これからどうなるかという点についての展望はどうか。私はむしろ展望後を聞きたいわけでございまして、マリンパーク構想については内協議中であって、これから事前協議へと移っていくと、こういうことでございしますけれども、先ほど申したように今全国的にもうリゾートというのはもうだめだ、これはもうリゾート法そのものが民間資本を活用するということですから、その民間がどこでもバブルの経済の中でもってみんなあおりを食っちゃって、こんな大型プロジェクトでもってリゾート開発なんかするなんていう力がないということでもって、もう引き揚げようとしているわけですから、これをどうこうということはできませんけれども、しかしながら庄司市長になっても施政方針その他でもって館山はリゾート都市としてこれから大きく発展します、大きく変わりますということは常に言っているわけでございしますけども、しかしながらこの内容がこういうことであると、果たしてこれが進んでいくかどうかということについて疑わしくなっている。

既に、さっきも言いましたようにテレビだとか新聞等でもって土地を買収をして、その企業がもう引き揚げちゃった、その土地をめぐるいろんなト

ラブルが起きている。町村としても非常に土地を提供したり、いろんな施設を提供したけどそれはむだになっちゃって、その責任問題が町にも起こっているというようなことが報道されているし、企業も先行投資した金が取れなくてどうなんだと、この救済措置をとらないと経済的な大パニックが起きるんじゃないかというようなことが政府内部なり国会の中でもって、そういった事後対策のものを考えなきゃならないんじゃないかということが論議されているということを聞いておりますし、館山もそういう点についてはやはり余り押せ押せ、リゾートよしよしでその内容がこういう状況では、その後大変な問題になるんじゃないかというふうに思うわけでございますけども、そうした点についてはきょう初めて内容的には事前協議中、それから内協議中ということでもって実現の段階にはこれからもかなりのステップがあるということでもって、これはかなり見込みなくなったなというふうな感触は受けましたんですけれども、その点はどうか。まだこの点について望みなり、可能性というのはどのぐらい追求できるものか。そういう面については市としてもかなり専門的に分析していると思うんですけども、その見通しについてもう少し明確な答弁をいただきたいというふうに思いますけども。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいま太陽海岸平砂浦計画につきましては事前協議中、それと南たてやまマリパーク計画につきましては内協議を終えまして、事前協議に入るところというふうな御答弁申し上げてあります。これは内協議と申しますのは、企業の出された計画内容を市と県が協議することを内協議と申します。事前協議は今度企業とそれから県とでもって内容を詰めていくと、こんなふうなことになるわけでございますが、これは平成4年6月10日が本申請の期限でございます。現在こういった協議をなされ、内協議の終わった段階で用地買収というのが企業でもって進められるはずでございます。もう既に進められているところでございますが、そんなような状況でございまして、6月10日の本申請を待つという現状でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番(辻田 実君) いろんなことをやりとりしていてもしょうがありませんので結論的に聞きますけれども、全国40幾つのリゾート地域が指定されて、その中でもって何とかものになりそうなのが4つか5つくらいだろう、海洋関係のリゾートはもう全く全滅だということがかなり公的な面で公表されております。スキー場、ゴルフ場を中心にして4つ乃至5つは何とかまとまるだろうけども、この後始末としては国としても非常に法律だけに大変だということが伝えられておるわけですが、館山もそういう状況を見ますと、どうもマリンリゾートですからもうほとんど絶望的というんですか、そういう分類に入っているんじゃないかと、そういう烙印も押されているんじゃないかというふうに思うわけなんですけれども、その点は市の方としてはどのように受けとめておるのか、この点についてお伺いしたいと思います。

◎議長(福原 勤君) 経済部長。

◎経済部長(脇田元始君) 海洋性リゾートタウンということでただいまの御質問のように進めておるわけでございます。しかしながら、現在県との協議関係と申し上げましたのは山の部分でございます。海の部分につきましては、御指摘のように大変おくれております。これは、当初計画につきましては県の方の方針が一般公有水面の埋め立てはまかりならぬ、いわゆる港湾乃至漁港区域内に限る、企業がそれも埋め立ての実施本体ではだめだ、いろんな問題がございます。そんなことで、海の公有水面埋め立て、漁業権など大変難しい問題ありまして、現在関係者と協議中という状況でございます。

以上でございます。

◎議長(福原 勤君) 辻田 実君。

◎26番(辻田 実君) 今の段階で、事務当局としてはそういう気を持たせるような答弁であるかと思うんですけれども、議会の方はその状況等を判断して、昨年まで地域開発特別委員会というのを設けてリゾートを中心にやってきたんですけれども、ことしはまだその状況を見ようということでもって、特別委員会の設置というのは検討をしているわけなんですけれども、今の状況でいくと、これを本当に議会は取り上げてその課題とかそういうものも差し迫っているわけではありまして、駅前の開発委員会等はそういうものに

迫られて設置したわけでございますけれども、そういう点については議会の動向、そういうようなものについてはどのようにお考えになっておるのか。感触として、議会にできないということについては市としても、今まであったものができないということについては非常な何ですか、刺激というんですか、何かそういうものを受けると思うんですけど、その点についてはどのように考えておるのか、御答弁できましたらひとつお願いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいま申し上げましたように、海の部分の開発というのがどうしても位置の変更、あるいは縮小になるか、いずれにしても当初計画をかなり違った形でものになっていくんじゃないだろうか、もちろんその位置も含めておるわけでございますが、そんなことでもって、これがさらに詳細なる計画が立てられ、具体的にお示しできる状況におきましてまた御報告申し上げたい、かように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） このレインボータウン構想ですか、これについては主要企業が引き揚げてそのかわりがないということでございますけれども、これは県のパンフレットにもレインボータウン構想ということでもって大々的に出ているわけですが、これは今のところもう見通しはないと、こういうことなのか。

それから、この1年間構想はもう構想として打ち出されているわけですから、その主体企業がなくなっちゃったわけですから、この面については何らかの対応策を講じたと思うんですけれども、1年たってそろそろそこら辺については見通しはついていると思うんですけれども、この構想を推進することは困難なのか、それともこれから大林組にかわって別の企業がこれに当たるという可能性はあるのかどうなのか、この点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまのレインボータウン計画の件でござい

ますが、これは大林組が撤退ということで現状になっております。しかしながら、これは平成元年の4月に千葉県が策定いたしました総合保養地域整備法の承認を受けたプロジェクトということになっております。したがって、現在のところ後継企業は全く出ておりませんが、この位置づけはなされておるわけですので、出てきた時点でということになるかと思えます。取り消すということは現在のところ考えておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この大林組の撤退に当たりまして、私は新聞でもって初めてえらいことになったんだなということを知ったわけでございますけども、その新聞の記事の中によりますと、土地買収についてめどがつかなくなったので引き揚げるということが非常に大きな要件になったと、こういうことが報道されております。ほかにもいろいろあったんでしょうけども、主要なところはそこだということが一つの問題で引き揚げざるを得ないと、こういう談話が企業側の責任者の方から出されておったわけでございますけども、巷間聞くとところによりますと、もう既に大林組はあの地域、ゴルフ場設置ということでもってかなりの先行取得をして土地の買収等が行われておったということを聞いておるわけでございますけども、これらのものが宙に浮いて、いろんな問題を醸し出すおそれがあるんじゃないか、全国的にはそういうものが問題になって、その宙に浮いた土地なりそこへ投資した金の回収なり、そういうものをめぐってもう非常に大騒ぎしているのが報道されているんですけど、館山は幸いそういうのが表へ出ていませんのでいいことなのか悪いことなのか、その点わかりませんけれども、状況はそう変わらない状況だと思うんですけども、そこら辺についてはこの大林組が引き揚げたことにより、土地等の先行的に行われたものに対する措置というんですか、問題、こういうものが具体的に出てきているのか出てきておらないのか。そういうものについては市は今後どのように対応なされるつもりなのか、そういう方向性があるのかないのか、これから検討するのかどうなのか、これらについてひとつ率直な御意見を聞かせていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの大林組の状況を — その土地に絡むことですが、私どもの方には大林組から平成元年の秋に地元並びに地権者にアンケート調査をしたということで、その中で反対が多い、さらには地権者の相続関係含めると確か 1,300人ぐらいの人員に上るだろうと、そんな理由で事業採算性が合わない、こんなことでもって撤退の文書をいただいております。したがって、その土地をどの程度、例えば — これは内協議が終わらない状況におきましては、開発行為をする企業は購入できません。したがって、別会社を買ったかどうか、どの程度買ったのかということにつきましては一切私の方には情報入っておりません。今申し上げましたように事業採算性が合わないののでこの企画をやめると、こういうふうな撤退の報告でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） その点については、大林組そのものはやはり土地の取得等については何というんですか、直接は行わないでしょうけれども、私のところにそのゴルフ場関係でもって土地を売ってしまったんだけど云々、その金額の問題、支払いの問題、そういうような問題でもって相談に来られる方も何人かおるわけございまして、それは聞きますとそれは俗に言うその地域の不動産業というんですか、そういう人たちが中間的に買って、大林なら大林の何というんですか、委託を受けて買って、そこを売ることであつたんですけども、本家はそういうことでもって無傷で逃げたんですけど、残された地元なり地域のそういう人たちというのはこれから大変な問題になってくるんじゃないか、それを抱えてですね。そういう問題がほかにも発生しているわけでございますけども、そういった点に対するところの問題なり対応というものについては、今までどうなっておるのか、あつたのかないのか、その辺についてちょっと伺いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 全然ございませんです。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この点については非常に根の深い問題で、ここはどうこうという問題じゃありませんけども、今日の全国的な趨勢、リゾート法によるところのリゾート開発の行き詰まり、こういうものが今巷間伝わっているような状況に推移するというようなことになると、館山は日本でも屈指のリゾート地域で、そして3つのこの構想が同時に進行するという画期的なものをやっただけに、そのあおりはかなり大きなものが出てくるということが予想されるわけでございますから、これらについては今後対応したいと思っておりますので、よろしく願いたいと思います。

3番目に、この教育問題でございますけれども、私はこの館山の高校は非常に昭和の初期から戦前にかけてはもう県下でも非常に進んでおって、水産なり安房農なり商業高校なり家政高校といった専門校がメジロ押しに起きて、こんなちっぽけな市ですけども、市内に高校が5つもあるというふうな、こういうもう非常に進んだ地域であったんですけども、どうも私は子供のころからの学校の編成が余り変わっておらないとか、こういうことでございまして、そうした中で私は過日館山の出身で県北でもって学校の校長をしている者に聞いたんですけども、館山は随分のんびりしたところだ、家政学科というんですか、家政高校があるのは館山ぐらいなもんじゃないの、今の若い子に家政科に行って勉強して独立しろといってもけんか売のようなもんじゃないのと、こういうこと言われて、そう言えばあったなと、こういうことでいろいろ聞いてみたらまだ残っているそうでございます。

館山高校はことしですか、来年は1学級減らすそうでございますけど、まだ残っているそうでございまして、こうしたものをそのまま放置しておいて、そして市内の進学率が97%か80%という中で、これは子供のニーズと合っていないんじゃないか、これはもう変えなきゃならないんじゃないかと、こういうことを言われまして、あんたは教育の専門家だから具体的にどうしたらいいんだと言ったら、今男女雇用法が通って男も女も炊事だとか勝手の中の仕事をするという時代に、女は勝手の中にこもって家政をやっていればいいな

んていう、そういうものではもう若い人ではもう通じない、むしろそういう若い人のニーズを取り入れるんだったら、家政科というのはその内容的には洋裁とか、それから食品というんですか、料理とか、そういうものをやっているのを総合して家政科というんだそうでございますけれども、それは昔の名前のイメージがあり、それだったらその家政科という名前をデザイン科だとか服飾科だとか、食品何とか学科だとかと、専門の料理学校だとかデザイン学校だとか、そういうものは非常に盛況だそうでございますから、そういうものに変えていけば子供たちも喜んで行くようになるんじゃないか、それをなぜやらないんだと、こういうことを言われましたけども、その点についてはどんなようにお考えだったんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 家庭科につきましては御指摘のとおり、来年度——来年の平成4年度から安房南高等学校の家庭学級が2学級のうち1学級減になります。館山高校も同じく1学級減と、このように変わってまいりまして、高等学校の改編推進協議会におきましても家庭科は服飾科とか、あるいは福祉科だとか、あるいは保育科とか、そういうような名前に変えたらどうかというような案も出ております。

家庭科は御承知のとおり被服と食物と保育と、3つのことを勉強させておりまして、非常に私たちから見ると非常に家庭婦人としては適当な科ではないかと、このように考えておりましたが、御指摘のとおり非常に女性の社会進出が変わっておりまして、それと同時に高学歴の時代になりましたようですから、普通科志望が非常にふえてまいりまして、家庭科志望は確かに減ってまいりました。多分こういうような背景のもとに、高等学校改編推進協議会の方においても検討なされている、いずれはそのような方向に打ち出されるであろうと、私は思っています。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 私は家政学科というものについて余りこだわるわけじゃありませんけども、館山の象徴としてそういうのが残っているという

ことは非常に何ですか、おくられているというんですか、変動のないとこだという象徴のようなものじゃないかというふうに感じておりまして、今それに該当する生徒がいますから余り強く言いませんけれども、私はちょっと古い人間なものですから、せんだってこの質問をするに当たりまして、安房西高校の教員に聞いて、「おまえのところは昔は家政高等女学校といったけれども、今それどうなっている」といったら、「冗談じゃない、辻田さん少し考えてくださいよ、西高になってからうちは家政科なんてありませんよ、家政科なんか残しているのは県立高校かそういうところで、私立ではとってもそんなことじゃ子供は集まりませんし、もう教育はできませんよ」ということで言われて、公立と私立の厳しさはごころ辺にあるんだなと思って、ちょっと私自身驚いたわけなんですけれども、そういう点ではやはりこれは県立高校だから県ということじゃなくて、県の方に聞くとやはり地元からの意向なりそういうものがあれば、どんどん何というか、そういうものに対応していくんだと、こういうことであつたんですけれども、そういった面について館山市として、もう少し市民の要望、特に生徒、子供等の要望を聞きながら、それに対応する市民運動なり、そういうものはできないものかどうか、その点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 学科の改編というのは大変なことなんでございます。といいますのは、施設も変えていかなきゃなりませんし、教員の配置も大変動させなきゃいけませんから、県立高等学校になりますと相当総合的に検討を加えていかなければ簡単には学科の改編はやれないと思います。その点私立高等学校の方は大胆でございますから、教員なんかの構成がびたりといかなくても思い切ってやりますけれども、県立高等学校に採用いたしておる、そこにおります教員のことも考えなきゃいけませんし、施設のことも考えていかなきゃいけないと、こういうような難しい問題もございまして、またそれに伴う他の学校に対する影響等も考えていかなきゃいけませんので、非常に慎重に——県といたしましては慎重を要する問題であると、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

次、8番議員永井龍平君。御登壇願います。

（8番議員永井龍平君登壇）

◎8番（永井龍平君） さきに通告いたしました学校通学路の点検整備について、9項目について御質問いたします。

現在、出生率の低下とそれによる少子化時代における小中学校児童生徒は、まさに将来を担う国の宝であり、国際化時代の21世紀の人材であります。この子供たちを立派にはぐくむために保護者はもちろんのこと、教育行政に携わる私たちがその義務と責任を自覚しなければならないと考えるものでございます。ゆえに、この子供たちを思いがけない事故などで失うことは絶対にあってはならないと思うのでございます。

全国的にも相変わらず交通事故は増大しており、事故対象者は特に高齢者と子供であり、発生状況は歩行者と自転車によるものが多いと発表されております。館山署管内の平成2年のデータによりますと、事故発生件数は448件、うち死者11名、傷者536名であり、事故の原因としては安全義務違反——前方不注意、安全確認をしない、一時停止をしない、速度違反などが上げられております。また、幼児、小学生、中学生の事故傷者を見ますと、平成2年では幼児14名、小学生31名、中学生18名となっております。

このように小学生の事故が多いわけですが、私は毎年小学校の入学式に出席をいたしますが、校長先生のあいさつの中で必ず次のようなお話をされます。それは、本日入学された皆様方は、幼稚園に通園していたときはお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんに連れられて通園しておりましたが、これからは自分でこの学校に通学をするようになります。ですから、これからは十分に車や交通に注意をして、事故のないように学校に来てくださいと、このような校長先生のあいさつがあります。

しかし、現実には先ほど申し述べましたように、小学生の歩行者による交通事故は一番多く起きております。学校の先生方、保護者の方、またPTA等の方たちが交通安全に対する指導は子供たちに徹底して事故の起きないよ

うに努力なさっていることはうかがえますが、小学生と言えれば幾ら指導、注意をしても衝動的であり、ふざけや飛び出しもあり、そのための事故も多いようです。したがって運転者に、歩行者に対する注意やモラル等を促すための交通安全対策と、交通事故を未然に防ぐための施設を十分に整備をしなければならないと考えるものであります。

そのような趣旨で、このたび学校通学路の総点検と整備に関するアンケート調査が行われました。この調査は市内のあるグループが中心となって、市内の小中学生の皆さん、また保護者の方 300名を対象に行いました。アンケートの回収率は 279名でありました。このアンケートは次の質問項目からなっております。1、時差式歩行者用信号機についてどう思いますか。2、横断歩道についてはどう思いますか。3、駐車禁止場所の駐車状況はどうですか。4、道路状況についてはどう思いますか。イ、狭くて車が通ると危険。ロ、道路の破損、陥没などがありますか。ハ、路側帯の白線の消失はどう思いますか。5、歩道についてはどうですか。歩道に電柱やブロック、その他の障害物等がありますか。6、排水路、側溝について危険なところがありますか。7、ガードレール、カーブミラーの設置箇所の要望はありますか。8、横断歩道橋についてはどうですか。9、通学路標識（警察関係以外）のわかりやすい標識の設置はどうですか。10、路上不法設置物などがありますか。11、その他と、11項目の調査事項でありました。項目別にいろいろな問題点や要望が挙げられましたので、それをここで整理をし、御質問申し上げます。

まず、第1項目目の信号機の設置につきましては、「時差式または歩行者用の信号機は青信号のときの時間が短くて、横断するのに大変不便」と回答した学童がかなりありました。これは車の渋滞等の問題がありますが、点検して改善できるところはお願いをしたいと思います。この点いかがでしょうか。信号機の設置の要望箇所としては7カ所ありましたが、特に強い要望が多くありましたのが館山小学校の通学路であります西の浜の富留宮商店の交差点であります。十字路であります。この通学路利用者は館山小学校の児童生徒 150名の生徒が利用しておりますが、この地点に歩行者用の信号機の設置を要望いたしますが、この点についてお考えをお聞かせください。

2項目目の横断歩道についてでございますが、利用しにくい18カ所、設置希望箇所12カ所、白線が見えにくい17カ所ありましたが、これらの点検を実施して、改善をしていただきたいと思いますと考えますが、いかがでしょうか。

3番目の駐車禁止場所に違法駐車が多いという問題でございますが、これについての回答はかなり多くありました。学校近くになりますと朝の7時半から8時という通勤時間帯と重なり、場所によっては道路の中央を通行していかねばならないところも大変多いようです。せめて、通学路についてのものは行政指導を強めていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

第4番目は学校近くの道路、また正門前の道路が狭いとの回答がありました。これは那古小学校、神戸小学校、豊房小学校、富崎小学校、二中、これらの学校が挙げられます。これらの学校につきましては、登校時は危険な思いをしているというしておりますが、解消策としてどのような検討がされておられますか、御質問をいたします。

また、市道160号線相生橋から県道白浜線を渡り、天理教からカーブして城山方面に左折するまでの道路は大切狭くて、危険だとの指摘が多くありました。この通学路を利用する学童はおよそ160名、幼稚園に保護者とともに通園する幼児は16名利用しております。朝夕の通勤の自動車はかなり多くあり、拡幅の整備の必要があると考えますが、いかがでしょうか、お伺いをいたします。

5項目の歩道並びに路側帯の白線の整備はどうかという問題ですが、調査では白線の消失等ではっきりしないところやこれから設置をしたところもございます。また、路側帯で排水路ぶたと道路との段差がある場所がかなりあり、これは国道、県道が多く、歩きにくく危険であるとの御意見がございました。また、狭い市道に多く見られる庭木、生け垣等の突出物があり、道路をさらに狭くしており、これらの撤去改善の要望がありましたが、これらについての実態を把握し、改善をしていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

6番目の排水路側溝についてでございますが、設置、改良の要望が多くあ

りましたが、特に豊房小学校の前の通学路にございます排水路にふたをし、路側帯にして危険防止をという強い御意見がございました。この排水路のふたの設置の整備についてどのように考えておられますか、お尋ねをいたします。

第7のガードレール、カーブミラーの設置については、国道、県道、市道にそれぞれありますので、当局としては国や県にどのように働きかけていくかという問題もあるかと思いますが、まずどの場所にどのように設置していくかという危険箇所や要望箇所の掌握から始まると思います。こうした全市的な掌握はどのように行っておりますか。特に、学童を交通事故から守るという視点から考えますと、パトロール等による定期的な点検が不可欠であると考えますが、その点の推進方はどのようになっていますか、お尋ねをいたします。

第8の横断橋の設置はできないかという調査でございますが、この件につきましては、交通量が最近特に増加している那古小学校の近くのバイパス道路についてでございます。これは国との関係がありますので、市当局において十分に検討を重ね、国や県に協議を進めていかねばならない問題と考えられますが、今後館山バイパス、また白浜線の開通に伴い、ますますの交通量が増加し、信号機による横断施設では用が足りなくなるのではないかという危惧を抱くものであります。学童保護者の回答では、この調査で設置の希望が多くありましたこの横断橋についてどのように考えておられますか、お尋ねをいたします。

第9目目の通学路の警戒標識の総点検についてでございますが、学童の安全を思うとき、運転者はよく理解、確認のできる標識を危険通学路に設置をしていただきたいと思うのでございます。今まで見かける標識は道路交通法による標識であり、余り目立ちません。もっとわかりやすいこの警戒標識の増設が望まれますが、お考えをお聞かせください。

以上、9項目にわたり御質問いたしました。これらは実際に登下校をしている子供たち、また子供たちの安全を心から願っておられる父兄、保護者の方々の御意見、御要望でございます。交通安全対策は上の方から全市的に

見て推進していく方法と、下の方からつまり歩行者が現場的に見てとらえていく方法があると思われます。この2つの見方の違いはそれぞれ子供たちの目と体験で見た方法と、行政の目で見た方法の違いがあると思います。私はこの2つの見方にどのように接点を持っていくのかということが大事なことでありと考えております。今回申し上げました現実に登下校をしている子供たちの目から見た交通安全対策について、また危険箇所対策について庄司市長さんはどのような見解をお持ちであるか、お答えを願いたいと思います。

以上、御質問を申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

学校通学路の点検整備に関します9項目中の第1点目、信号機の時差についての御質問でございますが、館山警察署交通課に照会いたしましたところ、車両の交通量や歩行者の利用状況、事故発生件数等、数量的なデータに基づいて決定しております。具体的に要望箇所があれば現況調査の上、必要に応じて改善できるとのことでございました。

次の信号機の設置についてでございますが、現時点では設置計画はないとのことでございました。今後交通量調査等を実施し、館山警察署等と協議してまいりたいと思います。

次に第2点目、横断歩道の安全性についての御質問でございますが、横断歩道は千葉県公安委員会が設置するものでございます。館山警察署交通課におきまして年1回、千葉県警察本部と合同で既に設置してあります横断歩道の点検を実施しております。その結果によりまして危険性等を考慮し、順次補修を実施しているとのことでございました。

次に、利用しにくい横断歩道とのことでございますが、その設置につきましては安全基準により歩行者にとりまして最良の箇所に設置しているとのことでございます。設置要望箇所につきましては、今後具体的に要望のあり次第、地元町内会長等と協議いたしまして、必要があれば館山警察署に要望し

てまいりたいと考えております。

次に第3点目、違法駐車についての御質問でございますが、これは運転手のモラルの向上が第一でございます。館山市といたしましては、引き続き違法駐車解消のため、市回覧への掲載等広報を実施してまいりたいと考えております。なお、取り締まりにつきましては館山警察署に要望してまいります。

次に第4点目、学校近くの市道につきましては、拡幅、側溝のふたがけ等幅員の確保を図り、危険解消に努めているところでございます。市道160号線につきましては、現在一部民地の埋め立てが予定されておりますので、埋立地と市道ののり部分を利用して今後整備いたしたいと考えております。

次に第5点目、白線の整備についての御質問でございますが、職員及び関係機関等により点検を実施しております。その結果によりまして、危険性等を考慮し、順次補修を実施しております。また、国道、県道の路側帯における排水路ぶたと道路との段差による危険場所の改善につきましては、それぞれの道路管理者に対しまして補修、改良の措置を講じられるよう要望してまいりたいと考えております。

次に、御指摘のありました道路上への枝葉等の突出による道路狭隘部分の解消につきましては、広報、回覧等を通じて所有者に伐採をお願いしているところでございます。今後ともさらに所有者の皆様の協力を得ながら、道路交通の安全確保を図ってまいりたいと考えております。

次に第6点目、排水路にふたをかけ、路側帯にできないかとの御質問でございますが、豊房小学校前の市道7022号線は昭和58年度から60年度にかけて道路改良工事で拡幅したところでございます。御意見の水路は農業用水路として数件の農家が利用しているため無蓋となっております。ふた設置につきましては、水利組合等と協議してまいりたいと考えております。

次に第7点目、ガードレール、カーブミラーの設置についての御質問でございますが、危険箇所、要望箇所の掌握につきましては、職員による定期的な点検を実施するとともに、交通指導員、関係機関、町内会長等からの要望や通報により掌握に努めております。

次に第8点目、横断歩道橋の設置についての御質問でございますが、建設

省千葉国道工事事務所へ照会をいたしましたところ、現時点では計画はないとのことでございます。今後交通量等の現況により、検討してまいりたいと考えております。

次に第9点目、通学路警戒標識の総点検についての御質問でございますが、今までも通学路交通安全施設の見直しにつきましては、各小中学校や交通指導員に依頼し、実施しております。最近では那古、船形地区の幼稚園、小中学校を中心として実施されました交通安全教育推進地域事業の中の環境改善部会からの要望によりまして、昨年標識28基、通学路の路面表示15カ所、これを設置いたしました。今後も関係機関等の協力によりまして、点検実施してまいりたいと考えております。

次に、わかりやすい警戒標識についてでございますが、御存じのように現在設置しております警戒標識は、道路標識等及び道路表示に関する命令によるものでございます。御指摘の標識につきましては、今後検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） ただいま市長さんの御答弁でおおむね理解をいたしました。二、三の再質問と要望をさせていただきます。

庄司市長さんにおかれましては、長い間教育者として学童に接し、ある面におかれましては父親となって子供たちの健やかなる成長を祈り、今日も変わらず子供たちの安全を願っておられることと推察をするものでございます。御質問いたしました幾つかの交通安全施設の設置等については、社会安全対策課が窓口となって、警察、公安委員会に要望してその実現があると伺っておりますが、これから幾つかの質問をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げるものでございます。

まず、第1点目でございますが、信号機の点検、改善と設置についてでございますが、今御答弁によりますといわゆる警察で設置について車両の交通量、歩行者の利用状況等の数量的なもの、データ、それと事故発生件数などに基づいて決定している、このように御答弁あったと思いますが、それでよ

ろしいでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そのとおりでございます。車両の交通量や歩行者の利用状況、事故発生件数等、数量的なデータに基づいて決定しておるということでございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 警察で設置基準——今おっしゃられた設置基準、条件といいますが、車両の交通量、歩行者の利用状況、数量的なものという説明今おっしゃられましたんですが、その設置条件を満たす何というんですかね——設置できる、合格になる、その目安になるものはどのくらいのいわゆる交通量でどのぐらいの利用状況のことを——状況によっては違うと思うんですけれども、どうなのでしょう。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 私の方で、社会安全対策課の方で、警察の方にこの問題についても照会をしたわけでございますけれども、いわゆるただいま申しあげました交通量、歩行者の利用状況、そういうことでございまして、いわゆる車両が何千台以上とかそういうことではなくて、いわゆるその道路状況ですね、そういうものを総合的に勘案してやっている、警察でもいわゆる明確な基準というのはないようでございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 道路状況等総合的なことで判断してやるということでございますけれども、それでは先ほどの西の浜の十字路に設置を私要望しておりますけれども、館山小学校の入り口の手前——約230メートルぐらい手前に城山に入るところに押しボタン、歩行者用がございまして、この信号機等のいわゆる設置条件ですか、そういったものはどのようなであったのでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 上須賀と楠見にまたがりましていわゆるマルト電器のところの押しボタン式の信号機かと思っておりますけれども、あれについての

基準といたしますか、そういうものについてはちょっと承知しておりません。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） あそこはたしか今 130名ぐらいの学童が利用しております。西の浜の十字路の歩行者用信号機の設置でございますけども、この十字路は先ほども申しましたが、小学生児童が 150名、先ほど申しませんでしたけども、幼稚園の児童は44名通っておられますんです。また、いわゆる県道から山の方でございますが、沼地域といたしますか、あそこが最近住宅がたくさんふえまして、結構一般の利用者も多いんですね。したがって、いわゆるこのような実情でありますので、どうか非常に強い設置の要望がございますので、どうか調査を十分なさっていただいて要望を本当にしていただきたいのと、このように思うんでございますが、やっていただけますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 先ほどの市長の答弁にもありましたけれども、今後交通量調査等を実施し、館山警察署等と協議してまいりたい、要望をしてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） どうかよろしくお願いいたします。御答弁の中で、事故発生件数などに基づいていわゆる信号機の設置等、いわゆる徹底する、このように答弁あったんでございますけども、これ警察の方の判断であります。いわゆるこれは単純に聞きますと、この地点に事故の発生が多ければ——たくさん事故が起きた、こんなに起きたんじゃ設置をしなければいけないと、このように聞き取れますけれども、このように理解してよろしいんでございましょうかね。

それと、私は事故というのは予測しない、想像もしない、まさかという出来事が起きてしまうことを事故と私考えるんですが、本年1月に県道館山白浜線の真倉の路上にて午後5時半、いわゆる夕闇時でございますが、女性のお年寄りの方が車にはねられて亡くなりました。事故原因は運転者の前方不注意でありました。その後、しばらくしてその地点を中心に3基の街路照明

が設置されました。

そしてことしの3月、その北条1713番地の和屋金物店さんの十字路で
すか、あそこでやはりお年寄りの方が車にはねられて亡くなりました。
そして、その後しばらくして——最近ですか、いわゆる樹脂系滑りどめ全面
塗装が前後に施されました。

それで、古い話になりますが相生橋の十字路で、今の信号機があるところ
で事故がありまして、やっぱり亡くなりまして、その後しばらくして信号機
が設置をされております。

この事例から見ますと、交通の講習会なんかでよく言われますけども、交
通事故は、基本的な考えとして交通ルールを守って、それで未然に防ぐんだ、
起こさないことが大事なんだ、このように教えられます。いわゆる事故が発
生してから対処する、このような事故防止安全対策が後手後手に回る対応で
は断じてならない、このように考えますけども、先ほどのいわゆる発生件数
に基づいて決定しているこの意味と、この点についてどのように考えておら
れるのか、御質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 死亡事故の箇所につきましては、その都度警察
も交通安全対策課と一緒にしまして、その地点の再検討をしているようで
ございます。また、年1回定期的にそういう危険箇所を千葉県の警察本部と
合同でやっているということでございます。要は、やはり事前にその交通の
危険箇所の把握をして、未然に事故を防ぐと、それが一番最も大切なことで
ございます。私の方もそういうところにつきましては住民、または交通指導
員、または職員等と一致協力いたしまして、未然に危険箇所の発見をして防
止をするというふうな体制を整えておるわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） ただいまの答弁では危険箇所をいわゆる把握して、
事故防止すると、こういうふうにありましたけれども、いわゆるこの警察で
いう、この事故発生件数などに基づいて決定するというのを、先ほど私が言
ったように起きてしまって、いっぱい出て、事故が起きてしまって、もうこ

こが危ないなと、危険だな、そしてじゃ、それによって設置をする、信号機、横断歩道だとかいろんな施設を設置するんだと、こういうふうになっているわけでしょう。これについてそのように判断していいんですね。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） あくまでも事前に危険箇所を把握するというのが最大のポイントでございますが、ただ実態として死亡の事故がある場合があります。その場合にはその箇所を警察としても徹底的に点検して、施設を――規制施設をつくっていくということでございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 人の命がなくなる死亡事故、死亡事故が起きてからではいけないわけでございます。ですから、その前に、ここは危ないな、この交差点危ないな、十字路危ないな、今そういう声が多いんです。ですからつけていただきたい、未然に防ぐために。人が亡くならないために、死なないために。ですから、ひとつその点をまた考え直してもらいたいです、これ。発生、事故が起きた、亡くなった、だからつけるんだというふうじゃなくて、今部長さんがおっしゃられました、いわゆる起きないために防止する対策を立てる、これが大事じゃないかなと、このように思いますね。どうかそういうことをよく言ってくださって、要望して設置をしていただきたいなと、そのように思うわけでございますので、よろしくお願いいたします。

信号機の点検と改善でございますけども、これ船形にございます、職業訓練校の地点にありますあの十字路がございます。この信号機でありますけれども、この信号機の点滅順序に問題があるんじゃないかなと、このように思うんですね。それはどういうことかと申しますと、船形駅入り口の国道127号から大体50メートルあります。この方向の車と海岸側から来る車、これが青になりますと一斉に左折、右折で流れるわけですね。そして、そのときに横断しようとする歩行者がございまして、この歩行者用も同時に青になります。したがって、歩行者が横断しようとするんですが、右折、左折の車で全然渡ることできないんですね。そういう意見来たんで私行ったんですけども、全然横断歩道は渡れないんですね。それで、赤で車が来ないときに渡るとい

うケースがあるんですね。渡ることができない、そのうちに歩行者用が青の点滅になります。そしてそのときは — 歩行者用が青の点滅になる、そしてそのときに自動車用は青のままで車は横断歩道上をどんどん走行しているわけですね。そして歩行者用が赤になって、歩行者が渡れなくなって車用が黄色となって赤になる、結局歩行者の方は渡れずじまいで次の横断チャンスを待つ、このような実情でございます。

僕はあそこ年じゅう車で通っていますけども、ドライバーの立場としては全然わからないですね。歩行者じゃなきゃあそこわかんないです、横断歩道を使って、利用してみないと。そういったいわゆる私現場見て、行ってきたんですけども、いわゆるこれはほんの一例でありますけども、全市的に見まして交通安全施設についてはこのような問題がまだ考えられますので、早急にそういった現場を調査して、しかるべき改善をしていただきたい、このようにお願いいたしますけども、この点についてはどう思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そういう今船形の職業訓練校の前の信号についてお伺いしたわけですが、これにつきましても警察の方によくお話をしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 歩行者の — 先ほど上の視点、下の視点と言いましたけども、本当に私たちはドライバーで、運転の立場で見ていると全然わかんないんですね。ですから、本当にそういう歩行者のたまには — 私たちはドライバーであります。また歩行者でもあります。ですから、そのようなふうにまた行政の方もその立場になって歩いて、いろいろやっていただきたいなど、このように思うわけでございます。立場になってですね、お願いいたします。

2番目の横断歩道の点検の実施と改善はという問題でございしますが、これにつきましては横断歩道、また5番目の横断歩道路側帯の整備、7番目のガードレール、カーブミラーの設置については御答弁で、市といわゆる具体的な要望箇所があれば関係機関、区長、町内会長と協議して、要望してくださ

るということでございますので、要望箇所もたくさん上げられておりますけれども、時間等の制約もございますので、後日にまた提示をしたいなと、このように考えますので、よろしくお願いいたします。

また、3番目の違法駐車行政指導を強めてくれということですが、これは取り締まりを強めて、またいろいろなPRに努めてまいるということでございますので、よろしくようお願いいたします。

4番目の学校の近くの通学路は狭い問題でございますけれども、これは特に側溝のふたがけ等いろいろ御努力なさっておられるようでございます。この市道の160号線についてでございますが、御承知のように道路幅が3.5メートル欠けるんですね。しかも、路肩が壊れておりまして、朝晩の通勤時間帯になりますと普通自動車がすれ違いが全くできません。歩行者、学童、利用者もあいているスペースを探して車の通過をやり過ごすという実態、実情でございますので、どうか早急に拡幅整備の方をお願いしたいなと、このように要望をいたします。

5番目でございますが、歩道、路側帯の整備についてでございますが、県、国に早急なる措置を講じていただくというお答えでございましたので、よろしくお願いいたします。いわゆる樹木、生け垣、庭木の突出物の件についてでございますが、毎年8月に道路を守る月間において、この路上障害物、突出物等の点検、撤去のPR等にいわゆる大変な努力をなさっておるようでございますが、この件につきましても神戸の方に以前突出物があって困るというふうに聞いておりました。これはよくまた指導をきちっとしていただいて、早急な撤去改善を進めていただきたい、このように要望いたします。

6番目の排水路側溝についてでございますが、特に豊房小学校の排水路にふたをしていただきたいということでございます。これについては先ほど御答弁ありましたけれども、この利用している農家はどのくらいございますか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 地権者が何名ということはありませんけれども、穴があるのが6本ということでございますので、それが1人であるのかあるいは6人であるかちょっとわかりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 聞くところによりますと、この排水路は御答弁にありました58年、60年にかけて拡幅するためにつくられたと聞いておりますけれども、設計、施工の段階ではふたをするようになっておったんだけど、この水利組合の方々のいわゆる要望でふたをしなかった。しかし、現在では交通量もふえて学童たちも危険を訴えておられますんで、御答弁ではたしかふた設置については水利組合と協議していくということでありましたようですが、いわゆるふたを設置していく方向で水利組合の方と協議をしていくというふうに理解してよろしいんですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） そのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） よろしくどうかお願いいたします。

ガードレール、カーブミラーについて――7番目でございますが、きょうの朝もそうだったんですが、いわゆるカーブミラーにつきましては以前複数の議員から質問がありました汚れ、これも指摘がありました。それで、現在の時期、風のない晴れた夜半、急速に冷え込みますと露が発生いたします。そして、その露がカーブミラーに付着いたしまして、そして朝通勤時間帯、学校のいわゆる通学時間帯に全くそのカーブミラーとしての機能を果たさない、そのような現象が見られます。きょうの朝もそうございました。この汚れと露の改善策をどのように考えておられますか、お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 確かに、今の時期になりますと白く付着して見えなくなるわけでございます。これも時間、いわゆる早朝といいますか、時間帯だと思っておりますけれども、ここらはやはりコミュニティといいますか、近くの設置してあるところの住民の方々がひとつ何とか学童のために、または交通安全のためにお願いしたいなというふうな考えは持っております。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） コミュニティ — 近くの住民の方をお願いしたいということですが、そのように進めていかれるんですか。 — いかれるんですね。今そういう御答弁ですね。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そういうふうに希望をいたしております。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） ひつつそういう実態でございますんで、どうか機能を果たすように、せっかく高いお金をかけてつくったものですから、むだのないようにしていただきたいなと、このように思います。

9項目目の通学路の警戒標識の問題でございますけども、お答えでは昨年ですか、28基、道路表示15カ所設置したようでございますけども、これちょっとわかりにくい標識なんですね。

私議員になって初めての質問のときに、相生橋の問題取り上げたときに、あそこに隣接する104号と相生橋の江口医院の前の道路ですか、あそこにわかりやすい通学路標識を、いわゆる青柳青年館ですか、あの前のところと、相生橋ぎわに1基、そして104号線のところに1基つけていただきましたけども、このようないわゆるわかりやすい標識をつけていただきたいなと思うんですね。いわゆる学童には学校、あるいは指導員等で十分に指導しておられるようですけども、ドライバーに対してが大事だと思うんですね、ぼくは思うんですね。ドライブに対しての案内、注意、警戒を促すための標識、これは先ほど申しましたところにこれ縦が1メートル500ございまして、横が45センチありまして、上に「徐行」と書いてありまして「通学路」、そして「学童、歩行者に注意、スピード落とせ」と標示してあるんですね。大変わかりやすい立派なものでございます。このような標識を危険箇所等につけていただきたいなと、このように思うんですね。

それと時間ですが、最後ですが、いわゆる多くの学童、一般の方が利用して危険度を感じている十字路、横断歩道、狭い通学路等について、先ほど申し述べました樹脂系滑りどめ全面舗装、あるいはゼブラ舗装といいますか、そのシマウマのあれのような — が事故防止に大変効果的と考えますが、こ

の設置をいわゆる危険箇所を調査して、把握して、設置を進めたらいいんじゃないかな、このように考えますが、これをひとつお願いしたいなと、このように思うんですが、いかがでございますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） とにかく学童、または貴重な人命を交通事故から守ると、そういう見地からいたしまして、市の方でも積極的に警察及び関係機関等に働きかけてまいりたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 永井龍平君。

◎8番（永井龍平君） 結論的に言いまして、交通事故防止につきましては先ほど申しましたが、運転者のいわゆるモラル、姿勢が最も問われます。これが一番大事でございますが、いわゆる交通ルールを厳守しておれば事故も起きないわけでございますけども、やっぱり人間というのは喜怒哀楽が示すように感情の動物でございます。交通戦争はさらに拡大しておるのが現実でございます。であるがゆえに、交通安全対策は万全を期して臨まなければならないと考える次第でございます。どうか市長さんにおかれましては、この問題は改めて認識をしていただきまして、関係機関に強く要望をお願いして、私の質問を終わらせていただきます。大変ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で8番議員永井龍平君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時33分 休憩

午後2時53分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

12番議員岩村勝弘君。御登壇願います。

（12番議員岩村勝弘君登壇）

◎12番（岩村勝弘君） 私は民主クラブの代表として、さきに御通告いたしました諸点につきまして御質問をいたします。

まず、通告に先立ちまして、庄司市政が1周年を迎え、順風満帆のすばらしいスタートを切りましたことは、まことに御同慶の至りでございます。庶民的と申しましょうか、民主的な親しみやすい市長として、住民の温かい理

解と御支持に囲まれての行政は、市長の人柄のよさによるものだと思います。それに加えて、助役さん初め、行政マンとしての優秀な方々に恵まれていることは、文字どおり鬼に金棒でございます。（拍手）御賛同を得まして大変ありがとうございます。そして、いよいよ2年目を迎え、庄司市政に庄司色が、その色が実現されるときを迎えました。市長の御見識と情熱を持って、しかも長期的展望に立たれて、英知に磨かれた決断力で、後世に残る名市長としての政策を実行していただきたいと、心から祈念いたす次第でございます。

それでは、質問に入りますが、質問にはさきに秋山議員、そして9月の議会では日下議員によって、富士の跡地問題、そういうような点については質問がなされましたけれども、私は民主クラブとしての既定の方針どおり、質問に入りたいと思います。

大きな第1点、将来的展望に立って館山市全域の構造化を考えた都市づくりを再検討をなすべきときではないかということであります。日進月歩の時代であります。リゾート法も主管官庁の国土庁が来春より全国的に見直しをしなければならないと新聞紙上を通して発表しております。館山市でも今までの計画でよいのか、進捗状況はどうかと心配する声があります。4年前、四全総、半島振興法、リゾート法の制定は地方の起死回生の福音として、館山市にももたらされたのであります。

当時、市民センターでリゾート法の説明会を開くと、熱気をはらんで2階までいっぱいでした。講師は現旭市長の――その当時は県の企画部長の加瀬五郎先生がお見えになり、知事もあいさつに来られました。民活による活性化の一大プロジェクトであり、もろ手を挙げて賛成しました。投下する資本は1,500億円であり、館山市が15年間飲まず食わずの予算に匹敵したわけでございます。みんな目くらむばかりで、議会の質問もリゾート問題に集中したわけでございます。

しかし、昨今の館山市で自信を持って市の活性化はリゾートにあると言えるでしょうか。バブル経済の崩壊は金余りから金融面からの引き締め、そして不動産売買に強い影響を与えました。リゾートの見直しを軸に館山市の全

域の高層化、機能化を考えた都市づくりは目下の急務で、そうしたまちづくりを私は提案するわけでございます。今までも総合的に政策を立案されたことと思いますが、とかく産業、観光、道路、都市開発等、問題別に比重がかかっていたのではないのでしょうか。以下、小問題に入りますので、御答弁はその小問題別で結構です。よろしくお願いいたします。

1、富士ディーゼル跡地利用について。私が申すまでもなく、富士ディーゼルの跡地は将来館山市の中でも交通要地の一等地であります。すなわち127号バイパスと海岸線との道路を結ぶ八幡高井線の都市計画街路に面しております。また、JR館山駅からも西口が整備された暁は海岸道路を使って指呼の間にあります。総合的な官庁街をつくっても少しも不自然さはなく、市民にとって官庁が1カ所にあればまことに利便性が高いと思います。館山市役所を初めとして、安房支庁並びに保健所は現在の土地では駐車場問題で手詰まりであります。また、老朽化しつつある法務局、労働基準監督署、職業安定所があれば市民は1カ所で用事を足せることになると思います。加えて、裁判所が加入すれば申し分ないところであります。それに半官半民的な農協、漁協の施設、銀行、郵便局に呼びかける。駐車場はもちろんのこと、公園緑化を考慮することができると思います。全国的にもこのような官庁街をつくってある地方都市はなく、模範的な行政サービスモデル地区になるのではないのでしょうか。館山のこのプランを実現していったこそ日本の館山、リゾート地の顔をつくることであり、活性化につながるものと信じます。御決断を心からお願いいたします次第でございます。

次に2、飛び地における町名、地名、番地の変更について。この問題については、積年の弊と申しましょうか、旧来の陋習と申しましょうか、東京はいち早く町名の変更をした理由は、全くこの前近代的な地理的な問題を解消し、すっきりとした住居表示に変えて明確な地番に変えたのであります。特に、昔からの名前で住民の親しまれた——例えば黒門町とか、江戸時代からの懐しい町名を返上したのであります。結果はすごい、すぐ家がわかる、メリットが多いと聞いております。私は全面的に改定しようとするものではありません。飛び地だけをまず改称したらどうかと提案するのであります。例

えば八幡の 181番地あたりが湊の中にあり、上野原の中に長須賀があり、長須賀の中に真倉があり、新宿は浜新宿に分割されております。全市的に点在する飛び地の改称が行政形態をすっきりさせ、今後の行政の基本となると信じております。そこで提案いたしましたわけでございます。

次に、3に入ります。東京湾横断道路に整合性のある 127号バイパス、それに南部利水計画が平成7年を目途としています。それがあと4年後でございます。この完成にあわせて受け皿づくりをしなければならないと思うのであります。住民の中には館山は単なる通過地点になるのではないかと心配する向きもあります。実際、横断橋着工当時から木更津商工会議所が調査した結果、若い人は横浜に買い物に行くという答えが多かったのです。そんなことから、受け皿づくりは急務です。確かに道路の完成が館山市の袋小路性の脱却を図り、観光客の多くなることは事実でしょう。しかし、今申し上げましたようにその効果をさらに確実にするように、受け皿づくりは大切と思うのであります。つまり、観光農園の充実、農水産のやら、花卉の即売センター、地場産業の紹介、それらを市の指導方で援助していったらどうか。これは市営といいましょうか、公営といいましょうか、そういうような施設は1カ所くらいあってもいいのじゃないかということで、受け皿づくりとしての市の対応をお伺いする次第でございます。

次に、4の残されている富士跡地買収について。この問題は、先ほども申し上げましたように秋山議員からも、9月議会では日下議員が相当いろんな方面からこの問題を取り上げておりました。私はこの問題をどうしても継続交渉として購入していただきたいのです。跡地一括購入は私だけでなく、あの館山の一等地を公共用地として先行取得すべきであるという考え方は、これは市民の願いでもあると思います。その意味で、館山商工会議所から以前公共用地として先行してもらいたいという要望が出されたのも、一つの大きな世論であると思います。9月議会の折、市長は日下議員に対して「重要な場所であるが購入はできない。最大の理由は資金面である」と話されております。いわゆる買収費用が館山市の経常予算に匹敵しているからだと話しておりました。しかし、市民は市長の政治手腕に期待しております。再考して、

市民の願いを実現させていただきをお願いいたす次第でございます。

次に大きな2、文化ホールの件について御質問いたします。館山市では半澤市政以来、文化都市の建設を標榜しております。9月議会以来、どういう方法で陳情とか誘致運動を進めてきたか、具体的にお話を願いたいのです。それまではこの10月、11月が山場であると言われてきましたが、何の具体性もないままになっております。孫子の兵法の中にも車懸りという戦術がございますが、波状的に陳情することが必要じゃないかと思うのであります。執行部で指令を出してください。みんな協力する構えです。そして、4万の目が注目しております。

次に、3の最後の項目、教育施設について、昔は十年一昔と言われております。今の世の中では二、三年で一昔になります。ミネベアの社長が新しい機械を設置したときに、もうその機械は既に古くなっている、新しい機械が開発されているのだと申ししておりました。すなわち二、三年稼働したらもう新しい機械を設置しなければならないと話されておりました。かくのごとき時代です。機具、機械は幼いころから親しむことが大切であることは皆さんには釈迦に説法であると思います。なるがゆえに私は学校にファクシミリを設置していただきたいのです。現在県下でも各学校に普及する傾向があらわれてきているからであります。

最後に、先ほど永井議員もるるいろいろな点から話されておりましたけれども、登下校時に交通事故から児童を守るための対策を実施していただきたい。と申しますのは、私の学区は北条小学校でございまして、その北条小学校は特に新しい幹線道路に囲まれることからこの問題は急務であると思います。道路標識、スクールゾーンの標示等をよろしくお願いいたします。

以上で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。大変失礼いたしました。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 岩村議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の将来的な展望に立って館山市全域の構造化、機能化を考えた

都市づくりを再検討すべき時期であると思うがいかがか。問題の小さな第1点目、第4点目の富士ディーゼル跡地に関する御質問は関連がございますので、一括してお答えいたします。富士ディーゼル跡地につきまして、非常に積極的な御意見を拝聴させていただきました。お礼申し上げます。ここに官庁街を形成して行政サービスエリアを建設することについての御質問でございます。これまで県と協議してまいりましたが、当面県として出先機関等の統合、移転計画はないと伺っております。また、残地を館山市が積極的に取得することにつきましては、秋山議員にお答えしましたとおり、現状極めて困難でございますが、今までの市議会の御意向を踏まえ、今後も関係方面に対し、働きかけるよう努力してまいりたいと考えております。

次に、大きな第1の小さな第2点目、特に飛び地の町名、地名、番地の統合、変更についての御質問でございますが、いわゆる飛び地と言われますものは全国的にございます。それぞれ歴史的、伝統的な問題を持っているわけです。飛び地等字の名称や区域の変更につきましては、公共の福祉に資するといった観点から必要に応じて長が行うものとなっております。現在、館山市におきまして具体的に変更を行っておりますものは、土地改良等特別にその必要が生じた場合に変更を行っているところでございます。

次に、小さな第3点目、平成7年度を目途として道路、水道問題に関する受け皿づくりについての御質問でございますが、御指摘のとおり道路、水等、今まで地域振興の大きな障害となっていました問題が、平成7年度を目途に明るい方向に向かってきております。館山市基本計画はこうした社会、経済情勢を踏まえた中で、長期的展望に立った計画として策定いたしました。計画におきましては幹線道路整備、水道水源の確保等による経済波及効果を地域に呼び込むため、都市基盤整備を初めとしてインダストリアルパーク計画、ウェルネスリゾートパーク計画等の地域振興施策の実施を位置づけてございます。さらには、生産基盤整備を初めとした農水産業振興対策や経営の近代化及び経営基盤強化等の商工業振興対策等、諸施策を実施することとしております。こうした行政による諸施策の実施のほか、民間の努力による受け皿づくりも必要不可欠であり、官民一体となった地域振興を図っていく必要が

あると考えております。

次に大きな第2、県立地域文化ホールの交渉経過と現状についての御質問でございますが、館山市といたしましてはこれまで議会の強力な支援、御協力をいただいております。そのほか自民党県連館山支部、南房総住民の会等、さまざまな団体の御協力を得ながら、機会あるたびに陳情等を行ってきたところでございます。また、館山商工会議所からも知事への陳情書が提出され、地域挙げての盛り上がりある誘致活動が強力に展開されていると認識しております。これに対し、県当局におきましては複数の自治体から要望があり、候補地は未決定の状態でございます。したがって、候補地決定の時期等につきましては、全く予測できないのが現状でございます。

次に、大きな第3、教育施設の充実と北条小の登下校の安全対策につきましては、教育長より答弁いたします。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 大きな3、教育施設の充実と北条小の登下校の安全に対することでございますけども、そのうちの小さな1点でございます。各学校にファクシミリを設置したらどうかという御質問でございますが、ファクシミリは新しい情報機器として極めて利便性の高いものと私たちも認識いたしております。今後小中学校での必要性等について、他の市町村の設置状況等を調査しながら、その設置につきましては検討してまいりたいと、このように考えております。

安全対策につきましては市長より答弁いたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 次に、教育問題の小さな第2点目、北条小学校登下校の安全対策についての御質問でございますが、市道1031号線の開通に伴います交通安全施設といたしましては、既に設置してございます館山バイパス交差部の信号機のほか、横断歩道2カ所、道路両面の歩道、道路照明3基等

の設置を計画しております。また、開通後は定期的に市の交通指導員の協力を得て、登下校の安全指導を進めてまいります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 岩村勝弘君。

◎12番（岩村勝弘君） それでは、再質問に入りますけれども、先ほど御答弁が小さい1とそれから跡地問題についての交渉、両方まとめてお答え願ったので、私もまずその跡地——最後の跡地の交渉について、それから再質問させていただきたいと思います。

まず、大変勉強不足で申しわけないんですけれども、先行取得という言葉は、これはどういう意味でございましょうか。どういう場合に先行取得という言葉を使いますか。これをお教え願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 将来いろいろな都市施設であるとか道路用地であるとか、そういった予想されるものに対して買っておくものが先行取得でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 岩村勝弘君。

◎12番（岩村勝弘君） 私は、今前段で言われた公共用地としてあらかじめ取得をする、あくまでも公共施設の、そういうような利用のために将来的なものを見通して、そして財産なりそういうような何かの施設をつくっていくというようなことを先行取得だと、こう考えていたわけでございます。ですから、例えば本間市長のときに藤原のあの山の中を買っておいたわけです。そして、今コミセンのわきにも相当の大きな土地があるわけです。ああいうような場合、本間市長があの時代のときにあの山の中を買っておいたあの先行取得と——私はそういう場合を言っているんですけれども、それがあったからこそ県立運動公園なるものが現在ででき上がってきていると、そう思うわけでございます。ですから、今のコミセンのわきはこれはどのような事情であそこにあれだけの広大な土地が残されているかということ、その間の事情は皆さんおわかりだと思うんで、私だけがわかんないで、皆さんはこれは

こういうようなことだというようなことであそこに大きな、とにかくああい
うものを——もともと大昔からあそこに市有地がなかったとすると、ああい
うのを先行取得というんだなと、そう理解しておったわけでございます。

ですから、そうしてみると私はこの9月議会の日下さんの質問に対しての
いろいろな市の御答弁をよく考えながら読ませていただいたのですが、そう
すると日下議員は「市の答弁は一直線じゃないんじゃないかな、クランク状
の線をえがいている、答弁がクランクしている」、おもしろいことを言うな、
なぜこれクランクといったのかなと思って、その間の事情をよく読ませても
らいました、議事録を。

そうすると、平成3年の7月19日、ことしの——ついこの間の7月19日の
日に、あの説明の中に、一番最初はそういうように先行取得だなという感じ
だったんです。ところが、システムコンサルタントというんですか——あれ
が入って600万の費用をかけて県にその案を持っていったらば、県ではそれ
を拒否した、これではいけないと言われた、何のためにコンサルタント600
万円、日下議員も不思議がっておるんですが、なんでこうあれなのかな、そ
れで600万円だからなというようなことで、私もどうしてかなと思ったんで
す。

そうすると、あれは今度県でもって——だいいち企業庁にあれを持ってい
ったというのはちょっとおかしいんじゃないかと、だんだん読んでいるうち
にですね。なぜかという、どうしてあの跡地に企業庁に関係するような、
最後は企業の研修場所、企業の宿泊場所を建設するんだ、それは企業庁で用
地買収に占める割合が大き過ぎる。これは道理でしょう。あそこのいい土地
に研修だとか、それから保養所だとかというのはどうもというのは、普通保
養所だとか研修所だとか山の中の安い土地を買うのが、これが普通じゃない
ですか。これはけられるに決まっているという、素人考えでもそう思うんで
すけれども、なぜ途中でもって——その前までは富士ディーゼルと相談をし
ていて、富士ディーゼルも市役所の方々の案については全面的に協力するよ
うなことが載っているわけです。それで、幾ら幾らのことについて、もしか
富士興産とか綱管のサービス部に2,350坪ですか、会社内部の話し合いで譲

渡しなきゃいけないけれども、館山市でその土地が邪魔になるならば、ほかに代替地を求める、探してくれるならば、我々はそれを、そこから富士興産もエンジンもとにかく 2,350坪をもって代替地をいただけるならば皆さんの御迷惑にならないように私たちは出ますから。随分理解のあることを言うてくださるんだと、それだけまでにこう考えてくださる、それに対する答えを市の方では考えなきゃいけないんじゃないか。あくまでもこれは公共用施設と最初から言っていたように一括購入、公共施設としての用地として買いたいんですよという既定方針どおりなぜそこに宿泊施設、研修施設、それでつくって土地ごと売却するんだ、まるであっせん業のような感じがするんですけれども、これはいかがなことでしょうか。まるであっせん業をしているような感をしておる。

だから、日下議員はおかしいな、直線的にそのことを受け取れない、何かクランクのような状態だというのはこれを言っていたんだな、最初から公共施設としてのもう筋を通して、あくまでもこれはこうだということやっていけばいいのに、なぜこの会社、できればインダストリアルパークと連携して、連動してその企業にあれば余計企業庁は援助してくれるんじゃないか。これに至っては私、これは政治的、行政的なそのあれではないなという感じを持ったわけでございます。

ですから、いかがなものでございましょうか。あれが金だったならば私はじゃ藤原の公園、コミセンのところ、それからさっきも出た運動公園、私は議員なりたてのときに半澤市長に、あなたが今市民に誇れる施策は何か — さっきもだれかが何かそういうような内容を話していましたけども、どうかと言った場合に、みんな先輩議員は半澤市長はあれをどうしても離さなかった。相当な赤字だったけれども、それを離さなかった、それで何とか財政再建を考えていこう、今やたらにあそこへ安易に軽々に終末処理場を — 今はもう完全に決まりましたけれども、あそこへ持っていったらいいなかったらあそこへ持っていったらいい。私は先ほども冒頭に申し上げましたように、庄司市長が必ずや政治的手腕でお金の — あれ買ったときにどうだったんですか。今古い役場の吏員の方々、本間市長はあれは経常予算で買いまし

たか。藤原の運動公園のあれを建てると先行取得した場合に、当時のあれで
もってどういう方法で取得しましたか。助役さん、どうですか。御存じない
ですか。

◎議長（福原 勤君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 藤原の運動公園は、あれは市が直接じゃなくて —
たしか私の記憶では開発公社が担当して買収したと思いますが、土地の値段
が今のように — もう公共事業を行うのに今は一番のネックになっているの
は地価の高騰でございまして、これは館山だけじゃなくてどこでも、ですか
らあと道路新設ですとかいろいろ、それがネックになっているわけでして、
今と比較にならないほどの地価だったわけでございます。ですから、当時開
発公社が借金して買っても金利負担、当時としてしたわけですがけれども、今
の時点の地価とは比較にならないほどの値段だったと、このように記憶して
おります。

◎議長（福原 勤君） 岩村勝弘君。

◎12番（岩村勝弘君） 私はあれなんですよ、物価というものはこれはど
うしても経済的な — これは今度はバブルが崩壊したとかいろいろなことで、
そのときを時勢で移ると思うんです。それは移っていると思います。ですか
ら、またそれなりに苦労しているんじゃないかと思うんです。コミセンの広
大な土地も恐らく買ったときには — 開発公社でもってやったださるなら
開発公社に今度だって頼んで、開発公社にやってもらって、そして市の方は
こう負担をしていくんだ、それに対しての負担をこういうふうにしようとい
う、そういう手当てをしていけば大丈夫か、それとも今助役さんが言われる、
余りにも 100何億は大き過ぎる、1年間の予算だと。

しかし、私はなぜここに公共用地を、日本にも珍しいようなそういう官庁
街、行政サービスエリアをつくるということは、これは館山、千葉県の南端
にそういうものができ上がるんだ、150億でも何億でも、私は今じゃこの間
ヒアリングしたときに、安房支庁とそれから保健所とかそういうところ回っ
ていただきましたか。こういうような考え方があるけれども、安房支庁はと
てもそういうのに乗れないなといっているかどうか、それを聞きましたか。

それとも忙しくて期日がなかったんで回れなかったか。どうですか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 以前に安房支庁については安房支庁とそれから県の総務課の方に行っているんですが、移転はこの順番からいっても今のところなっていないというふうなことでございます。

それから、保健所につきましては今狭くて移転はしたいという話はございますけども、現在富士ディーゼルの跡地に移転するという、膨大な土地がありますので、あそこでは広過ぎるということでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 岩村勝弘君。

◎12番（岩村勝弘君） 簡単に言って、向こうへ移るのは、もう移るとしたら困ると言っていたんですか。その点をはっきり、とにかくまだ全然考えていない。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 困るということじゃなくて、移転計画はないということでございます。

◎12番（岩村勝弘君） 移転する意思がない。

◎総務部長（二通英雄君） 計画がないということでございまして、それから保健所については移転計画はございますけども、広過ぎて保健所だけであそこに移転できないと、こういうことでございます。

◎議長（福原 勤君） 岩村勝弘君。

◎12番（岩村勝弘君） 実は、私本当に申しわけないんですけども、この間の吉田さんの祝賀会のときか、支庁長の石井さんが来ていたんですよ。それで、「石井さんどうですか、こっちへ移りませんか」と、「そういう考えはありませんか」と——酒飲んでる席上ですからこれは公式な話じゃ全然ありませんけれども、「どうですか」と言っていたときに、「ああそうですか、市に先生が提案されるんですか」と言った。「提案しようと思っています」、「市でそういうようなことで腰を上げてもらえれば、我々の官庁も特に保健所なんか移りたい移りたいといっている、保健所だけはもうそう言っ

ていましたから、ほかの官庁でもそういうような話があって、そしてそれを市で、館山市が音頭をとって中心になってそういうあれをしてくれるならば、我々は今すぐ軽々にはいいですよとは言えないけれども、ありがたい話ですね」と、こういうことをちらっと——飲みながらですからこれはもう全然あてになんないよと言われればそれまでですけども、でもそういう私が皆さんに言ってもらいたいなということを言っていましたのでどうだったかなと思ってお聞きしたわけです。

それでは、次に現在館山市役所はどこへ建てる予定ですか。いつどこへ、そしてその資金面はそういう場合にはどういう手当てを行いますか。実際に市役所を私はそちらにと提案しているんですけども、じゃ市の方としてはいつどこに、資金面はこういうように手当てをしたい、現在7億なら7億用意できたとかいろいろ、その計画はどうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 現在のところ館山市役所をどこに移すとか再建するとかということは具体的には検討してございません。ただ、積立金によって平成元年度から毎年2億程度の積み立ては行っておりますけども、最終的な場所についてはまだ具体的な検討がなされていないというのが現状でございます。

◎議長（福原 勤君） 岩村勝弘君。

◎12番（岩村勝弘君） 私はこれはいつだったか、だれだったか、とにかくこの市庁舎を改築しなければならない、全面的に今見ても駐車場だっていっぱい、パンクしちゃってる、いつかはしなきゃならない。そういう場合に私は恐らく今までコミセンのわきのあそこら辺に、とにかくだれか今までの人たちがあそこへ建てようじゃないか、ゆくゆく。それであれを先行取得したんじゃないかと、こう思ったんですけども。そしてもう少しとにかく具体的にいろいろな面を——それは計画ですから途中から変わることはありますよ。あってもどうしてもこういう基本的なことを、庁舎はここへ建つんだな、今度は庁舎はあそこへ建てる予定だったけど文化ホールが来るからどうしてもじゃあっちへ行こうということで、そういう考え方を、基本的な姿勢

をはっきりとしていただきたいと、こう願っておるわけでございます。

それで、3のところですね。ちょっとその次に移りますから。3の受け皿の問題なんですけれども、受け皿の問題も私は先ほどリゾート法のときに、リゾートが発足したときに館山市も注意しなければいけない、あの3年前に私はやはり皆さんと同じように通告したんです、リゾート問題です。そのときはもう全国がリゾートに徹していましたから、私も相当いろんな資料を集めたんです。日本でもってリゾートの成功するのは沖縄と北海道だけだ、沖縄と北海道の2つだけだよ、もう専門家が必ず崩壊してしまいます、2つしかない、やれる、残るとしたらその2つだ。なぜかという、需要と供給がもうアンバランスなんです。リゾートというのは天国なんだ、社会と隔離する、隔離されたところに行きたい、寝ころがりたい、ハスの上に寝ころがりたいんだ、お釈迦様が途中でもって回ってくるような、そういうところにいたい、その人間的な欲望を果たすのがリゾート。そうすると、「今のこのリゾートは金太郎あめじゃないですか」といったら「絶対違う」と、ただ注意してくださいよ、必ず企業は慈善事業団体じゃないから、必ずもう悪けりゃ逃げますよ。

私はこの今3の問題も、受け皿問題もそうなんです。それから、文化ホールでも私は個人的にもう一度行きました、旭へ。そうしたら、旭の方でもとにかく今県立だから割合に運営は県の方で任せてあれするからいいけれども、採算が合わないんですよと、なかなか。演劇や何かをやっても、あそこら辺の人たちはおいそれと夜だどうだといってもなかなか出てこない。いろんな行事を、高級なことをやると出てこない。そうすると採算に合わなくなるんですよという内輪話をずっといろんなところで調べてみているんです。

そして3の2ですけど、インダストリアルパーク、これは先ほどもだれかが質問していましたが、私どもも建設経済でも山口県に行ったんです。会派で和歌山県の田辺市というところへ行っただけです。そうすると、山口県のテクノパークは何ともう第1回分譲して15区画を売るといったら、13区画売れちゃった、「もう完売に等しいですね」と、「そうです」、それで田辺で「どうですか」と言った。田辺は「売れませんよ、なかなか」と言うんです。

2つの差はどこにあったか。もうテクノパークの方は、山口県の方は交通の便が非常にいいんです。宇部空港に15分、国道1号線に10分だとか山陽新幹線だ、それから高規格道路が通っているとかがどうかという、その近くの山の中なんですよ。それがいいから。それで坪何と2万幾らですよ。2万円ちょっとですよ。これインダストリアルパークは坪1万円ぐらいで売りますか。今の販売予定価格は幾らですか。1万円でいいですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの工業団地の関係につきましては、まだ用地取得費、それから工事費等まだ一切出ておりません。したがって、できた暁での坪当たり単価、ちょっとその辺わかりませんでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 岩村勝弘君。

◎12番（岩村勝弘君） そういうことで、インダストリアルパークもそうなんですけれども、例えば千葉市でもって川鐵を呼んだときに1坪10円かな、あの当時で1坪10円。随分安いね、大企業に奉仕するなといったら、それから何年税金として何億の金が千葉市に入ってきているんです。ですから、私は企業奉仕するとか大企業にどうだとかと言わずに、あのインダストリアルパークも坪1万円でもって、来てくださるなら1万円でいいじゃないか。5,000円でいい、ただでくれてやれというのはこれはちょっとあれですけども、そのくらいの気持ちで活性化のためには市民に理解をしていただくということでやってもらわなければならないんじゃないかと思うんです。

それから、1つだけその活性化の問題で、これも秋山さんが言っていたんですけども、豪華ホテルをつくったらどうかというような提案されましたけど、豪華ホテルというのは、1つなら1つやっぱりつくらなきゃと我々の会派としてもそういう気持ちは持っていますよ。それで、なぜあれかという、先ほど申し上げましたようにリゾートというのは俗社会から切り離すということなんです。ですから、今のリゾートはわざわざこんな房州まで来なくたっていいじゃないか。それはどういうことかという、アーバンリゾートというのが今できているわけですね。ですから、その考え方をひとつ私は

持っていただいて、そういう豪華なそれと呼ぶ、またはそういうような手だてをやっていくかどうかということを市の方々にお伺いしたいんです。そういうことをやろうという気持ちがあるかどうか、私も重ねてお話を聞くわけでございます。

それをもちまして、お答えを願ひまして、私ほかにもありますけれども、これにてそのお答えを聞きながら質問を終わらせていただきます。どうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまリゾート関係でのホテル計画はそれぞれ太陽海岸平砂浦計画としては60室のを1つ、それから南たてやまマリンパーク計画につきましては、120室ということで1棟、それぞれホテルの計画が進められておるのが現状でございます。それ以外に大型のホテルを館山市にということになりますと、それだけの企業が進出する、それに対して市の方がどれだけバックアップできるかということになろうかと思いますが、やはり先ほどの質問にも出ましたんですが、そういう収容関係が全国的なものが開催できる、そういったものがあれば大変結構なことだろうと思いますが、それはそういった企業の進出と相まっての検討になろうかと思います。

以上でございます。

◎12番（岩村勝弘君） どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で12番議員岩村勝弘君の質問を終わります。

次、4番議員斉藤 実君。御登壇願います。

（4番議員斉藤 実君登壇）

◎4番（斉藤 実君） 去る9月議会で私二、三質問させていただきました。庄司市長さん初め、御当局のいろいろな御答弁をいただきました。しかしながら、二、三の問題が残っておりますので、これらの問題につきまして御質問申し上げます。

さきに通告いたしました教育行政について。2番、農業基盤整備済みの土地利用問題について。3番が水道事業のその後の進展状況、以上3点について御質問申し上げます。

昭和29年5月3日、館山市が周辺6カ村を吸収合併いたしまして、自来歴代市長さん初め教育長さん、実に御熱心に教育問題に取り組んでまいられました。したがって、我が館山市内の学校教育施設、非常に他の町村と比べて優秀であるということは高く評価されております。当時の庄司校長先生、現在の庄司市長さんは一中、二中、そして館山小学校の校長先生を歴任され、千葉県の、そしてまた南房総の教育界の偉大な指導者としてその手腕を十分に発揮されてまいりました。館山市と行政とともに学校教育に精進せられてきたのであります。その力量におきまして、高く市民の尊敬し得るところでございます。

しかしながら、この反面に校庭、グラウンド、いわゆる子供たちが運動場と称するところが非常にこの校舎に比べてあるいはおくれておるのではなからうか。学校教育にありましては教室内の勉強と、そしてまた校庭における生徒の体力の増強、これが両輪のごとく行われて初めて完全なものであると考えるものでございます。したがって、グラウンド整備問題につきまして、現在どのように行われておられるのか、方針が行われておられるか。まず第1点お伺いをいたします。

小学生、そして中学生はあすの世代を担い、あすの館山市を担っていく大事な国、そして館山市の宝でございます。現在の家庭での教育の現状はいわゆる教育ママさんということ。学校から帰りますと、直ちに勉強、勉強ということであるいは塾へ、体力の増強というものをまず第二にいたしまして、その方面に力が入れられておるではないでしょうか。いかに頭脳明敏でいかに数学ができ、英語が堪能になりましても体が虚弱で弱くなったのでは、これは全くのゼロに等しいものであると私は考えるのであります。したがって、このような現状のときに雨が降って二、三日は、あるいは四、五日はグラウンドで生徒が運動することも体力の増強のために勉強することもできない、これでは完全な学校教育の方針とは申せないと思うのであります。この辺の行政の現在こうなっていると方針を、熱意のある御答弁をお願いしたいと考えるものでございます。

次に、社会教育でちょっと要望をいたします。やはりこれは昭和29年合併

以来周辺の6カ村と一緒に青年団を結成しようということで、全地区の青年代表が集まりまして協議会が開かれました。不肖私そのときの準備委員長ということで青年団対策に毎日努力をいたした覚えがございます。そして、めでたくその年の12月の5日、全市青年 800名、男女青年 800名、第二中学講堂に集まりまして、館山市青年団体連絡協議会という名称のもとに発足をいたして現在に至っておるはずでございます。不肖私そのとき初代会長を拝命いたしまして、青年団運動に何年か投入した覚えがございます。時の社会教育、青年団教育は非常にやはり次の社会を創造するあすの力として非常に大事なことであったわけでございます。

10周年、20周年、30周年記念のとき、私は初代会長ということで青年団総会に参りまして、約40分から1時間ぐらいろいろな問題で講演をした覚えがございます。最後の30周年記念のときは最初の 800がわずか数十名、あるいはそれを割ったか、50内外であったと存じます。非常に少なくなってまいりました。社会の趨勢というか、みんな若者が都会へ都会へとこのような現況の中に青年に館山市どまりということはあるいは無理かもわかりません。しかし、現在何名か残って団を結成しておるはずでございます。したがって、人数の多い少ないの問題ではなく、これらの青年団体にやはりいろいろな面で支援をし、指導をしていかなければならないのではなかろうかと、かように考え、これはこのような方針で社会教育を推進していただきたい、要望をいたします。

さて、次に第2番目の農業基盤整備済み後の水田利用問題、これについてお考えをお尋ねいたします。我が館山市には水田が 1,741町歩でございます。このうちの 800町歩、農業構造改善、すなわち基盤整備が行われてまいりました。パーセンテージ46%でございます。あとの50何%かも近い将来完成されることを私は期待いたすものでございます。水田はこの基盤整備事業、100%遂行して初めて現在の近代的な農業が営まれると私は考えるのでございます。

しかしながら、済んだ後の受益者の負担はまた大変でございます。一例を申し上げますならば安房中部土地改良組合館野工区、すなわち私の方の基盤

整備済みの組合でございますが、1反歩当たり3万3,400円、1年間に徴収されます。この代金は当初始めるときに国が5割、県が2割5分、我々受益者が2割5分、その現在の1年間の工事費と申しましょうか、かかった費用、毎年何年間かで払うわけでございますが、これが1年間に3万3,400円でございます。1町歩あれば33万4,000円農家は支出しなければなりません。大変な支出でございます。したがって、農家経済はこのためにかなり圧迫されております。しかしながら、これは義務としてまた払わなければなりません。したがって、農家にこれ以上の負担をかけないように市としても行政として農家にいろいろな面で支援していただきたい。

例えば、現在やっておられるのは幹線舗装、いわゆる基盤整備をつくった真ん中に幹線道路がございます。これにいち早く市は補助いたしたそうでございます。庄司市長さんになって、さらにそれを上乗せして補助をされておる。本当に善政であろうかと存じます。この額が東部地区、私の調べたところでは491万1,283円、いろいろな利子補給、いろいろな問題でこういう細かい数字になっておると思うのでございますが、このように善政を施す、大変に将来の農業のために結構であろうかと存じます。さらにまた農家の負担をこれ以上圧迫しないために、早急にこれを上乗せし、あるいは倍額にしてこのような事業に補助していただきたい。この辺いかがお考えになっておられるか、第1点お伺いいたします。

基盤整備後のこの水田の問題は、9月議会にも私かなり細かく申し上げ、質問いたしました。基盤整備後は水田はすべて1級水田になります。最低4メートルの道路がつき、先ほど言いましたようにその中央には7メートル道路がつき、近代的な農業機械が即使えるように、持っていかれるようになっております。したがって、この1級水田の最終目的は、米穀を中心にして農産物をより合理的に生産できるようにしているのが目的であろうかと存じます。ところが、このような支出が多いせいか、完成後の10年をたちますと繁華街に近いところの水田は残念ながら売買されて人手に渡ってしまう。9月議会に申し上げましたが、館山市にありながら東京村ができてしまう、これでは本来の目的ではないではないか、このように指摘をいたしました。こ

のようにならないために何か施策をしなければならない。

現在、館山市におきましては観光農業、いろいろと援助されております。山本、安布里の、あるいは豊房のイチゴ、神戸、西岬方面の花弁、相当に成果を上げておられるようでございます。しかしながら、反面に北部から東部は依然としてそのままでございます。これらの水田が売られないようにするには農家の収入を上げなければいけません。農家に借金をさせると、それがたまりたまって売られて東京村ができてしまう結果になろうかと思えます。これでは何のために基盤整備をやったのか。全くアブハチ取らずになってしまう。悪政と言わざるを得ないのであります。したがって、これらが売られないように、いろいろと補助していただきたい。現在の農政にどのようなお考えを持っておられるか。この辺のお考え、お伺いいたします。

さて、第3番目の水道事業のその後の進展状況でございます。これも9月議会にちょっと触れましたが、利根川から館山まで来る大変な事業でございます。まして、現在経済の動向は予断を許さない難しい時代に突入いたしております。この水道事業、房総導水路、そしてまた南房総導水路、平成7年の夏完成の予定でございますが、これらの事業に何か大きな支障が来ているのかどうか。順調に現在来ているのかどうか。その辺の見解を御説明いただきたいと存じます。

以上、3点につきまして御質問申し上げますが、御答弁により再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの齊藤議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、教育行政についての問題、これは教育長から答弁いたさせます。

次に、大きな第2の農業基盤整備済み後の水田利用問題についてでございます。基盤整備につきましては区画整理、用排水路、道路の整備を行うとともに、営農形態を一体とするため、数団地に分散しております農地を集積し、大型農業機械の有効利用、土地の高度利用、転作の推進等を図ることを目的

に実施されているところでございます。しかしながら、御承知のとおり近年の農業を取り巻きます諸情勢は極めて厳しいところでございますが、館山市といたしましても農業は重要な基幹産業のため、基盤の整備を初め、省力栽培の推進、中核農家の育成を図るべく、施策を講じているところでございます。また、暖地園芸試験場、農業改良普及所等、関係機関の協力のもとに特産物の選定及び高生産施設園芸の推進等、地域の実情に即した農業経営の推進に努めてまいりたいと存じます。

次に、大きな第3、水道事業のその後の進捗状況についての御質問でございますが、水道は飲料水、生活用水を初め、市民の日常生活に欠くことのできないものであり、公衆衛生の向上、生活環境の改善及び地域の発展に必要な水道施設の整備を早急に行わなければならないと認識しております。南房総広域水道企業団では、平成3年3月14日に水道用水供給事業の厚生省認可を受け、安房、夷隅郡市で総延長156キロメートルの送水管を布設する計画でございます。このうち本年度は46工区約35キロメートルの工事を発注いたしました。館山市内では国分、南条、古茂口、西長田地先の4カ所で、2,953メートルの工事を現在施行中でございます。館山市も南房総広域水道企業団の水道用水供給事業にあわせ、未給水地域の配水管布設、配水池の構築、既存施設の整備拡充などを内容とした第3次拡張の事業変更認可を本年度中に受けるため、現在県と協議を重ねているところでございます。また、配水管路の測量及び地質調査を行い、館野地区の一部では国道、市道の道路舗装改良に伴う配水管の布設を1,165メートルに施工いたしました。用水供給の受水地点につきましても、配水池予定地の出野尾地先山林の地権者と用地交渉を行い、内諾が得られるなど、認可後の拡張工事に向けまして鋭意努力しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

小中学校の校庭の整備についてでございますけれども、御指摘のとおりグ

ラウンドの排水の状態よくありません。したがいまして、校庭の整備につきましてはできるだけの努力をいたしておるわけですが、その整備には極めて高額な経費がかかるために、根幹事業の実施計画にのせていただいて、そして年次的に整備をしていきたいと、このように考えております。

また、御要望のございました青年団連絡協議会の育成の問題でございますけれども、若者が少なくなりました現在、極めて貴重な社会教育の団体であると考え、その育成に努めていきたいと、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 齊藤 実君。

◎4番（齊藤 実君） ただいまのグラウンドの整備についていま一度お問い合わせいたします。

去る11月22日でございますか、千葉県教育委員会指定の学校体育公開研究会が館野小学校で行われたはずでございます。たまたま私は見学には行けなかったのですが、ちょうどこのころは台風のシーズンで、週末はすべて雨という事実がございました。さかのぼって5月、館野小学校で体育大会、いわゆる運動会がございました。私は招待されて見学に参りました。そのときに、PTAの役員さん初め、関係皆さんが異口同音に「館野小学校は本当に排水が悪くて困ります」、「そうですか、我々が育ったころは非常によかったがな」、「それは古い方の校庭であって、今度大きく広げたから、広げた方が悪くて、大雨が降ると上を全部流してしまっ、二、三日はグラウンドへ出ることはできません」、11月にはこのような公開の体育大会があるんですが、雨が降らなければいいがなと、皆さんおてんとうさまにお願いしておりましたが、何とか一刻も早く直るように関係皆さん方へお願いしようと、その点私は約束をいたしたわけでございます。

11月22日は残念ながら雨だったそうございまして、体育館の中でやったそうでございますが、また聞くとところによりますと、来年千葉県学校体育研究大会が同じ11月に同じ館野小学校であるということを近ごろ伺いました。去年と同じように台風シーズンに大雨になるかどうか、いずれにしても子供たちがちょっと雨が降っただけでグラウンドへ出ることができない、

運動場へ出ることができない、これではやはり何かより憂慮にたえないと思うわけで、別に研究大会があるからどうのこうのでなくて、子供のころ我々も経験いたしました、試験があるから一生懸命勉強するのじゃなくて、ふだんから勉強し、ふだんから体育をやらなければいけない。虚弱児になってしまったんではいかに——先ほど申し上げました頭脳が鋭敏でも、寝込んでばかりいたんではどうしようもございません。したがって、いろいろと学校行政問題、大きな問題もございましょう。順番もございましょう。しかしながら、このような大事な問題はやはりある程度の特別扱いをしていただきたい。

ということは、我が日本国、国の問題にいたしましても、地方行政にいたしましても、1軒のうちに同じこと、すべてさあ大事だ。普通ならば順序を持って、あるいはバイクを買い、テレビを買い、うちの入り口を直すと、こういう順序もございましょうが、突発的な大きな問題があったときはやはり特別予算でその問題を解決していくのがいわゆる行政ではなかろうかと私は考えるわけで、別に公開研究会があるから、全県下の体育の先生が集まるからということではなくて、体育を子供たちが毎日できるように、なるべく早くこの問題に解決していただきたい。お願いいたします。

いま一言教育長さんのお答えを、お考えをお伺いたします。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 非常に貴重な御意見をいただきまして、感銘を深くいたしておりますが、グラウンドを、根本的に排水をよくするには相当な経費がかかるわけでございます。非常に深く掘りまして、そしていろいろな砂利等を入れないと、すぐに改修するというわけにはいきませんで、非常に高額な経費がかかるためにとりあえず暫定的に土砂等を配りまして、水のたまったところを自由に運動ができるようにさせていただいておりますが、極めてこれは計画的な事業じゃございませんで、本当にまたその次の雨が降ればまた流れてしまうと、そういうような状況でございますから、どうしてもこれは根本的にやらなきゃないと、このように思っておりますが、何しろそのように非常に高額なために、一遍にたくさんの学校やるというわけにいき

ませんで、先ほど申し上げましたとおり根幹事業にのせていただきまして、そして年次的にやっていこうと、こういうような考えでおるわけでございまして、しばらくの間お待ちいただきたいと、このように考えておるわけでございます。

なお、館野小学校の公開研究会のとき私も行きまして、非常にすばらしい研究をなされていたところ、雨のために十分に公開できませんで、校長初め非常に残念に思ったわけでございますけれども、出張所長と講師の話を聞きますと、その一部見ただけでもすばらしい公開であった、十分に館野の体育研究はすばらしいという評価をいただいております。

なお、また千葉県学校体育研究大会は館野小学校だけじゃありませんで、中学は三中が入っておりますし、高等学校は安房高校が入りまして、高等学校、中学校、小学校に通ずる大きな体育研究会でございまして、また我々もその点につきまして十分考えながら対処していきたいと、こう思っておるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 4 番議員齊藤 実君。

◎4 番（齊藤 実君） いろいろと高額なお金がかかるし、技術的にも大変なことであろうかと存じますが、あすを担う子供たちのためでございますので、なるべく最優先にひとつお願いいたしまして、学校整備問題終わります。

次に、農政の問題に入らせていただきますが、せっかく大金を出して1級水田をつくった、これが法律の許すところになりますと売られてしまう場合もあり得る。これでは所期の目的を達成することはできません。いつでも米穀を初め、いわゆるお米を初め、日本人の主食、米麦、あるいは雑穀類、つくれるような状況に、返せるような状況にしておけば、現在の米余りの時代におきましては非常に適切な施策ではなかろうかと考えるわけでございます。したがって、観光農業であるとか観光花卉の問題であるとか、いろいろ館山市の農業発展しておるようでございます。

しかし、何もそのような施策もできない地形、あるいは天候、いろんな問題が加わりまして、どうしても米だけしかつukれないというところもあるわ

けでございます。そういうようなところは何か考えれば、米余りの時代だけを切り抜ける一つの策として研究が必要であろうかと存じます。したがって、行政の中でも何々組合が、一部組合が、花卉組合が何かをやったから補助をすると、こういうことではなくして、20年後、50年後の農業の実態を把握して、そのように指導型農政、そのためには大変なこの技術者とかいろいろ必要であろうかと存じますが、少なくとも暖地園芸試験場、あるいは農業改良普及事務所、あるいは農業協同組合、これらの方々と十分に話し合える人たちを行政の中に配置していただきたい。そして、これらの農民がいつでも相談に来られる、そのような施策を、館山市ではいち早くこういう手を打っておると、このような行政をひとつ要望としてお願いしたいと存じます。

最後3番目、水道事業についてお伺いいたします。大変な事業で皆さん方も市長さん初め——市長さんも陣頭に立って今まで御努力をされて、本当に我々受益者といましては敬意を表しておるわけでございます。また、担当の皆さん方もお休みを返上していろいろ説明に回っておられる。各町内会の役員さん方は皆さんに敬意を表しております。この姿を完成するまでひとつ持っていただきたい。いろいろな問題があるはずでございます。料金の問題にしろ、水道管の埋設の問題にしてもいろいろあるわけでございますので、担当課の皆さん方、本当に大変だとは思いますが、何にしてもこの水はどうしても必要でございますので、今後とも各町内会、農家組合、いろいろの団体からの要望がございましたならば説明に行っていたきたい。お願いいたしますして質問を終わらせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 以上で4番議員齊藤 実君の質問を終わります。

延 会 午後4時24分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延

会することに決しました。

次会は明12月17日午前10時開会とし、その議事は本日に引き続き通告による行政一般質問を行います。

この際、申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは12月17日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

